

ひにあらた またひにあらた

苟曰新 曰新又曰新

と時が来たり



第144周年

甲府中学・甲府一高同窓会

令和6年(2024)5月18日(土)

甲府記念日ホテル



Golf & Spa Resort
—With Smile And Thanks—

北の杜カントリー倶楽部



ご予約
お問合せ

0551-32-1111

〒408-0037 北杜市長坂町中島4402
INFO MAIL: info@kitanomori-cc.jp



苟曰新 曰新又曰新

時が来た

第144周年

甲府中学・甲府一高同窓会

目次

甲府中学校校歌・甲府第一高等学校校歌・応援歌	2
ご挨拶 甲府中学・甲府一高同窓会会長	4
甲府第一高等学校校長	5
第144周年甲府中学・甲府一高同窓会実行委員長	6
特集1 限界の先へ―甲府一高強行遠足―	7
特集2 同窓生訪問	13
特集3 輝く	26
特集4 ありがとう一高	30
恩師寄稿	34
大西顧問寄稿	40
『あおぞら共和国』を支援する甲府一高あおぞら会	42
広告目次	44
広告（広告ページ1～84）	
第144周年甲府中学・甲府一高同窓会協賛者御芳名	132
バナー広告協賛一覧	133
第144周年甲府中学・甲府一高同窓会学年協賛者氏名	134
第144周年甲府中学・甲府一高同窓会実行委員会組織	135
編集後記	136

表紙・川崎咲穂さん（美術部3年）
題字・勝野莉子さん（書道部3年）

甲府中学校校歌

- 一、我等は日本に生まれたり
神の御代より一系の
皇統戴く我國に
生れしことのうれしさよ
皇國の榮えは天地と
共に窮りなかるべし
- 二、大和島根に山めぐる
甲斐の國あり水清き
郷土の歴史顧みよ
我等の務め輕からず
見よや南に富士ヶ嶺は
皇國の鎮めと聳えたり
- 三、大海原の揺りやまぬ
波をも風をも凌ぎつつ
護れ皇國を諸共に
國民舉りて國のため
撓まず萎縮まず辟易がず
進むぞ大和ごころなる

甲府第一高等学校校歌

- 一、甲斐の國 みに建ちて
古へゆ 雄心つたへ
新しき 世の鑑とし
勉めてむ この學びやに
- 二、日に新た また日に新た
いや高き のぞみをもちて
真なる 理きはめ
勵みなむ 若人われら
- 三、聳えたつ 芙蓉のたかね
清きかな 甲斐の山川
もろともに 玉と磨きて
賛くべし 天地の化育

起て撃て勝て

起て撃て勝て

甲府一高 一高

その名ぞ我が母校

仰ぐ芙蓉の峰さやか

穹天まさに轟かむ

見よ精鋭の集へるを

結べる眉に必勝の

誓ひは固しわれらが精鋭

おお

起て撃て勝て

甲府一高 一高

その名ぞ我が母校

希望の光

一、希望の光 身に浴びて

若人の意気負うて立つ

いま選手等の門出を

空もとどろに 応ふらん

二、敵軍いかに 猛くとも

忍び伏せたる梓弓

鍛えし腕引きしほり

敵のかぶとを 射落さん

三、見よ穹天の 雲は垂れ

覇権を握るは今なるぞ

蚊竜の意気胸に秘め

いざや起て起て わが選手

鶴城に

一、鶴城に桜花咲き

人は皆歓楽に酔ふ

われ一人落花を浴びて

前の恥花園に泣きぬ

二、秋来る健児の胸に

強き意気宇宙も空し

桜花の旗ひとたび振れば

醜の群れ微塵に飛ばむ

ヤッツケロ ヤッツケロ

ヤッツケ ヤッツケ

ヤッツケロ

お御崎さん

お御崎さんの神主が

おみくじ引いて

申すには

いつも一高

勝ち勝ち

勝ち勝ち

ソレ勝ち勝ち

ソレ勝ち勝ち



御挨拶

甲府中学・甲府一高同窓会

会長 丹沢良治

令和六年度の甲府中学・甲府一高同窓会総会並びに懇親会にご出席して頂きましたご来賓、恩師、同窓生の皆様には心より感謝申し上げます。

又日頃より同窓会の運営、活動にご支援、ご協力をして頂き有難うございます。

我が母校は明治、大正、昭和、平成、令和の時代を歩んできた歴史の中で、令和元年に中国から発生したコロナのパンデミックは太平洋戦争に次ぐ大きな災いになりました。学校での授業や課外活動に大きな影響を及ぼしました。生徒の皆さんや先生方、PTAの皆様方には大変な思いやご苦勞をなさったと思います。同窓会も思うような活動もできず残念でした。

令和四年になり学校での活動も徐々に再開されるようになり、四年振りに小諸までの強行遠足が実施され一高の息吹も蘇ってきました。

令和五年五月にはコロナ感染も五類になり、懇親会のできる第一四三回の一高同窓会も四年振りの開催となり盛大な総会となりました。

令和四年二月に始まったロシアによるウクライナ侵攻は小麦を初めとする食料品や石油など燃料費の値上りを招き、円安も相まって多くの物価が高騰しています。三十年続いた日本のデフレ社会もインフレの社会に変わろうとしています。強行遠足や学校行事の支出も今後増えると思えます。

同窓会としても時代に合った運営をしていかなければならないと考えます。

本年度の同窓会のテーマは「苟日新 日日新 又日新」時が来た」です。清水俊士実行委員長のもと、当番幹事の皆さん（平成三年卒、平成二十年卒）

が力を合わせ頑張ってきました。一高精神の真髄に立ち、世の中が大きくかわろうとしている今、本校同窓会の本旨を貫徹し次の世代に継げていく新たな時が来たと思います。

今年の第一四四回の一高同窓会総会はコロナ後二回目の開催になりますが、昨年にも増して多くの恩師や同窓生の皆さんに出席して頂き母校の発展の為、新たな時代の一高の為、何をなすべきか考える総会になればと願っています。

アインシュタインの言葉に

「学校で学んだことを一切忘れてしまった時になお残っているもの、それが教育だ」との名言がありますが、私に残っている一高の教育は、Boys be ambitiousと、苟日新 日日新 又日新と恩師の大木七郎先生が私に言った「花に水をやる気持ち忘れな」の言葉です。

この三つの言葉が人生の指針となってきました。私を教育してくれた甲府一高に感謝です。

この度の同窓会総会をもって同窓会会長を退任しますが、多くの同窓会役員理事、同窓生、先生方又関係する皆様のご理解、ご協力のもとなんとか大役を務める事ができました。

心より感謝申し上げます。

甲府一高が益々県下を代表する「文化の香りのする懐の深い進学校」に成られることを祈念して挨拶と致します。



御挨拶

甲府第一高等学校

校長 飯島 清樹

このたび、第144周年甲府中学・甲府第一高等学校同窓会総会が、「苟日新 日日新 又日新」のテーマのもと、盛大に開催されますことを心より喜び申し上げます。

同窓会の皆様方には、日頃より母校甲府第一高等学校の教育活動への御理解と物心両面にわたる御支援を賜り、誠にありがとうございます。衷心より感謝申し上げます。

コロナ禍も概ね収束し、学校ではほぼ全面的に本来の教育活動を展開することができるようになり、生徒たちは勉学に部活動に一高生らしく前向きに生き生きと取り組んでおります。ここではそのような学校の様子を一部紹介いたします。

部活動では、昨年5月の県高校総体において学校対抗で男子8位、女子10位と健闘し、山岳・空手・弓道・陸上・アーチェリー・水泳が関東大会に出場し、8月に北海道で開催されたインターハイには空手・アーチェリー・水泳が出場しました。

文化部では、県高校芸術文化祭において3部門（美術工芸・写真・文芸）で最高賞である芸術文化祭賞を受賞し、今年8月の全国高校総合文化祭には県下最多の6部門が出場することになっています。

進学では、令和6年3月の卒業生は、普通科と探究科を合わせ、国公立大学に延べ101名、私立大学には延べ371名の合格者を出しました。生徒数が減少する中で、国公立大学合格者は7年連続で100名を超え、旧帝大・医学部・早慶上智など難関校にも多くの合格者を出すなど、ここ数年安定した実績をあげているところです。

また、開設9年目となる探究科においては、課題解決・実践重視・外部との

協働・プレゼンテーション重視のコンセプトによる探究活動という新しい学びが軌道に乗ってきております。生徒たちは様々な外部機関・組織と連携しながら、課題解決に向けた取り組みを実践しております。さらに昨年度より文部科学省のWWL（ワールドワイドラーニング）コンソーシアム構築支援事業の拠点校に指定されて、よりグローバルな視点での探究活動や先進的な学びが可能になっております。

例年多くの同窓生の皆様の御協力をいただいております。強行遠足につきましては、昨年度、男子が学校から小諸までの10.4kmで実施しましたが、高根から小海までの41.6kmのコースで予定していました女子は、雨天のため途中の野辺山で打ち切る措置をいたしました。今回も佐久穂以遠の検印所を中心に、総勢300人近くの同窓生が、夜を徹して検印や給水、誘導、医療などの業務にあたってくださいました。この行事の辛さと価値を承知していらっしゃる同窓生の皆さんの、優しく力強い励ましの言葉に、多くの生徒が背中を押していただきながら小諸を目指しました。完走したか否かに関わらず、生徒たちは強行遠足を通して、間違いなく一步成長しました。そして生涯にわたって自分を支えてくれる宝物を得たのだと思います。

一高生が、3年間の本校での生活の中で、一高の精神に裏打ちされた有意な人材に成長していきますよう、我々教職員一同これからも一丸となって取り組んでまいります。

同窓会員の皆様におかれましては、今後とも変わらぬ御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。甲府中学・甲府第一高等学校同窓会の益々の御発展と皆様の御健勝を祈念しまして御挨拶いたします。



苟日新 日日新 又日新

(ひにあらた またひにあらた)

第一四四周年甲府中学・甲府一高同窓会

実行委員長 清水 俊士

第144周年甲府中学・甲府一高同窓会を担当します当番幹事の平成3年及び平成20年卒業生を代表し、ご挨拶を申し上げます。

私たちが当番幹事の委嘱を受けてからあつという間の1年でした。ちょうど昨年は、コロナが感染症法上の5類に移行し、3年ぶりに懇親会が開催された年でした。昨年は、様々な制約がある中での開催であり、先輩方の一方ならぬご苦労があったこと、我々も今になってようやく実感しているところです。また、多くの人が関わってこそ実現できるものであることを勉強させていただきました。

今回は、アフターコロナの中でどの様な同窓会が時代に合っているのかを模索しながらの開催となりました。新たな試みとして、電子チケットの導入を行いました。これは、次世代を担う若手の同窓会への積極的な参加を求めるものであり、また、個人でチケットが購入できる道にも配慮したものとなります。今後は、電子チケットが主流となる時代が到来するものと思われ、我々よりも後の世代が運営しやすい同窓会活動への道を切り開くものでもあると考えておりますので、今回の試みの反省検討などを踏まえ、より良い仕組みを次世代に引き継いでいきたいと思っています。次世代に、どのような形で持続可能な同窓会活動を引き継いでいくのか、同窓会の在り方について検討するに際し、丹沢同窓会長を始めとし、同窓会役員の皆様方、また多くの諸先輩方には、貴重な意見を賜りましたこと、さらに様々なご支援やご協力をいただきましたこと、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

さて、話は変わり私事となりますが、私自身、同窓会活動に積極的な考えを持っておらず、一昨年の暮れ、同級生の仲間から、当番幹事が再来年に控えていることを聞き、ようやく重い腰をあげたに過ぎませんでした。しかしながら、仲間とともに活動を進める中で、また、連綿とした諸先輩方の活動やその熱意に触れるたび、認識を新たにすることができました。同窓会活動は、我々が在校中に受けた恩を送り返すものという考えに至り、そこでまず、大方針として、3つの考えを立てました。①我々が受けた恩を現役甲府一高生に恩送りすること、②大先輩方の人脈と見識を受け継ぐ交流の場を確保すること、③同窓生の絆を深めて個々が発展することとし、我々の行う同窓会活動の最重要点

「時が来た」

は、在校生の支援活動であると再確認しました。

今回の同窓会の開催まで、いくつかの学校行事に携わらせていただきました。一つは、「先輩に学ぶ」探究講座への講師としての参加です。これは昨年の7月上旬に母校で開催されたものでしたが、1学年に所属する生徒約170名に対する講義でした。理系・文系からそれぞれ一人ずつ講師となり、現役の1年生に職業観や勤労観を講義するものでした。手持ちの時間はあつという間に経ち、講師として何か伝えると言うよりは、逆に、現役生からエネルギーをもらったように感じ、とても充実したものでなりました。2つ目は、伝統行事「強行遠足」支援活動でした。昨年から我々は、白田検印所の支援担当となりました。当日は、生憎の雨天であり、また、コロナ禍での中止から再開後、2回目の開催であり、完走率が伸びないのではないかと危ぶまれるところでしたが、生徒らは本当によく頑張り、支援と言うよりも生徒のひたむきさと純粋な熱意に触れ、我々の方が何か大きなお土産をもたらすように思い、伝統行事を継承することの重要性を感じる事ができ、改めて母校の偉大さを感じました。

我々は、この1年超に及ぶ準備期間において、学校行事や多くの諸先輩方と触れ合い、改めて母校に対する想いが強くなったと感じております。スローガンを検討する際にも、崇高な理念を成し遂げるために、今日の行いは昨日よりも、明日の行いは今日よりも、日々より良く全力を傾け、有意義に過ごすことを目指し、また、甲府一高の卒業生ならば、誰でも一目見れば校是であることを理解できるといふ誇らしい教えをスローガンとすることとしました。そして、サブテーマは「時が来た」とし、長らく社会を閉塞させてきたコロナ禍から脱却し、アフターコロナの時代に大きく舵を切り、大海原に船出の時だと高らかに宣言する意味を込めました。

最後になりますが、今日まで多大なご支援・協力を賜りました全ての方々に、心より感謝の意を表し、第144周年甲府中学・甲府一高同窓会実行委員長としてのご挨拶とさせていただきます。誠にありがとうございました。

さあ、新しい時代への時が来た！

特集1

限界の先へ

第95回 強行遠足

甲府一高伝統の強行遠足が令和5年9月30日(土)、10月1日(日)の2日間、甲府・小諸(男子)、高根・小海(女子)をコースに実施された。身体一つで遙か先の最終到達地点をめざす単純で過酷な行事は、10代の若者たちに何を与えたのか。





リポート report

男子

甲府一高 ▼ 小諸(懐古園三ノ門)

9月30日午後2時。天候晴れ。手元の気温計は30度を示している。予報では雨の心配はなさそう。体育着姿の男子307人は規律のとれた準備体操を終えると、女子の声援に送られ3年生から10分おきにスタートした。

11.5キロ地点、韭崎検印所。陽はまだ高く、汗だくでIDカードを差し出す生徒たち。バーコード読み取りによる「検印」を済ませて、水筒に麦茶を補給する。脚をストレッチする姿も見られるが、多くの生徒は息つくとすぐに飛び出していった。

須玉検印所(23.0キロ地点)を過ぎると、いよいよ厳しい上りである。大泉検印所(39.2キロ地点)までの2区間、16.2キロで、標高差616mを駆け上がる。強行遠足の過酷たるゆえんはここにある。

標高はスタート地点が288m。行程表上の最高地点はまきは給水所の1426m。ゴール地点667m。完走するには距離だけでなく、上り1138m、下り759mの高低差を克服しなければならない。全国の100キロマラソンの高低差を見ると「丹後100kmウルトラマラソン」(京都)が400m、「飛騨高山ウルトラマラソン」(岐阜)が約500m、「阿蘇ボルケーノトレイル」(熊本、令和5年)が850m。国内屈指の超絶ハードコースを謳った「白山白川郷100kmウルトラマラソン」(岐阜・石川、大会終了)でも1230mであり、甲府一高強行遠足の過酷さが分かる。

厳しい条件は距離と高低差だけではない。強行遠足で歩く歩道は車道と違い、交差点や路外施設があるたびに段差の昇降を強いられる。砂利や雑草が目立つ場所もある。わずかに十数センチの段差はストレスとなり、いやおうなしに体力を消耗させていく。

30日午後10時20分。気温20度の大雨で細かい雨に気付く。コンビニの明かりを頼りに、数人が雨具を着る光景も。この時点では、まさか深夜以降、生徒たちが冷たい雨に打たれ続けることになるとは思いもしなかった。汗で濡れた着衣が、気温の低下に伴って体温を奪う。その上に頭から靴の先まで雨にさらされた。各検印所でリタイアが続出する。道中で座り込み、茫然とする生徒もいた。

苦しさを仲間と共有しながら進む。あるいは伴走の友と離れ、ひとり闇を歩く。圧倒的な疲労感の中で頭をよぎるのは、果てしなく感じる道程だけではない。学業のこと、部活のこと、将来のこと。はたまた思いを寄せる人のこと





か。左右の脚をただ交互に、無心で運んでいる時間もあるだろう。そこには現代社会でもてはやされる、「タイパ」なる概念はない。今の疲労や足腰の痛みは倍速でやり過ぎせない。

夜が明けても、雨は強弱を繰り返しながら降り続いた。反射材付きのタスキを着け、リュックを背負った濡れの高校生が、車やトラックが増え始めた国道141号を行く。しっかりと足取りもあれば片脚を引きずる者も。自らの体力、精神力の限界と向き合う一高生たちが、間違いないここにいた。

そんな彼らにとって、検印所やコースの辻々に立つ大人たちからの励まし、吹奏楽部同窓生による演奏、野辺山のシジミ汁が、どれだけ精神や体力の回復の助けとなったかは想像に難くない。

「限界はもう少し遠くにありました」

10月1日正午過ぎ、最終到達地点である小諸・懐古園三ノ門を二人でくぐった生徒はそう言った。黒縁眼鏡の奥の確かな眼差しは、現代の高校生に対して語られがちな「ひ弱さ」とは反対の、生気に満ちた力強さを感じさせた。

女子

高根（高根総合支所）

野辺山（野辺山検印所）

女子332人に対する号砲は、男子スタートから18時間後の10月1日午前8時。早朝の降雨を受けて、校長、PTA会長、同窓会長が協議し、午前7時の予定を1時間遅らせる措置を取った。曇り。気温20度。

雨はスタート地点を出る頃から断続的に続く。大泉検印所（8.2キロ地点）で到着のピークを迎えるころ、先の清里、野辺山は時折強い雨が降る厳しいコンディションに。小海に構えた本部で、校長、教頭、体育振興主任が気象予報、各地点の天候等を踏まえて協議する。10時10分頃、最終的に、野辺山検印所（21.3キロ地点）での途中中止を決断した。降雨・低温下で、防寒着、雨具を着ていても低体温症など健康面のリスクが大きくなった、との判断。男子・女子の歩行状況、コースの各地点、検印所をくまなく巡視していた校長らが、迷いながらも冷静に判断したことがうかがえる。

悪天候による幕切れ。野辺山検印所には即席のゴールテープが用意され、友人と手を取り合い笑顔でゴールする生徒たち。1、2年生にはこの先の小海までの景色は来年に持ち越しである。一方で、前年、小海に到達できなかった3年生には無念さもあつたかもしれない。打ち切りを知らされた生徒の一人は、野辺山到着時に垣間見えた高原の青空を、少し恨めしそうに見上げた。



※学年は令和5年9月時点

小諸・ゴール地点

全体トップ

増田郁太(2年)陸上部
去年(7時到着)より早く、明るくなる前に着きたいと思っていた。先輩と一緒に走っていたが、清里から一人になり、小海から脚がつかなくなった。気持ちを鍛えられる面ですごくいい行事だと思う。

久保寺大樹(2年)サッカー部
104キロはやっばりきつかった。仲間と一緒に走ったが最後は余裕があったので一人で突っ走った。佐久穂から白田の区間が長く休憩なしで行ったので厳しかった。リングは御守をくれたマネージャーにあげた。

末松隼澄(2年)野球部
仙洞田豪(2年)野球部
スタートからゴールまで一緒に来た。清里が一番きつくてリタイヤしようかとも思ったが、痛み止めを飲んで楽になった。末松君にも励まされた(仙洞田)。まきばで霧が濃く先が見えずきつかったが、吹奏楽の演奏が聞こえてきてじわっとくるものがあった(末松)。

茅野智治(3年)
去年は小海でつらいと思ってやめて、帰ってから悔しい思いが大きかった。絶対ゴールするぞという情熱が足りなかった。今回はそれを心の中に持っていた。

三神瑛樹(2年)ハンドボール部
雨でめちゃくちゃ寒かったけど、楽しく走れた。去年は小海で終わった。今年はやる気が違った。

畠山慎太郎(1年)山岳部
きつかった。野辺山でくじけそうになった。諦めないことを学んだ。頑張れば、限界つてもっと遠くにあるんだと思った。最高です。

廣瀬元希(2年)ハンドボール部
植松洸貴(2年)ハンドボール部
長かった。小海すぎたあたりからずっときつかった。ほとんど2人で来て、励まし合いながらゴールできた。104キロで支え合う大切さ、友情を学んだ。

久保寺大河(2年)サッカー部
(先にゴールした双子の弟・大樹さんは余裕そうだったよ)まじつすか(笑)。前回弟は小諸まで行き、僕は小海までしか行けなかった。それが悔しくて今回は弟についていくことを目標としていた。完走できてうれしい。交通整理してくれる人とかが声を掛けてくれてめちゃくちゃパワーになった。

和田侑(2年)自然科学部
一人で最後まで成し遂げたいと思っていて、それができて本当にうれしい。去年は海ノ口で終わったので、どうすれば完走できるか一年間研究してきた。

丹沢良治 同窓会長
生徒たちがずぶ濡れになりながら頑張る姿に心を打たれた。女子は野辺山で終わる形にな

り残念だが、これも強行遠足。諦めずに頑張れば道が拓ける。一高の強行遠足で経験したものを将来に生かしてほしいと思う。

清里・野辺山 9月30日午後11時頃

吹奏楽演奏で生徒を励ます

有井啓悟(令和5年卒)吹奏楽部OB
この春卒業した吹奏楽部の19人が参加している。今日は夜7時から12時前まで演奏する。現役のとき、下の方から歩いてくる時に演奏が聞こえてきてとても元気が出たのを覚えている。校歌や応援歌で後輩たちを励ましたい。

シジミ汁調理を担当

林田あき子(平成3年卒)
シジミ20キロを用意している。夜8時くらいから作り始めた。生徒やスタッフの分だけでなく、吹奏楽のメンバーにも持つて行く。

学校 9月30日のスタート前

塩田一颯(2年)サッカー部部長
今回、高校サッカー選手権の試合があり強行遠足には出られない。その分走りたかったという悔しい思いを胸に、苦しんで走っている仲間たちに勝利を届けられるように頑張る。

奥秋 涼(2年)サッカー部
僕たちは強行遠足には参加できないが、クラスみんなやサッカー部で強行遠足に出るみんなには一高生としてしっかりゴールまで行ってほしい。





女子

多くの人からの声援が力になった。野辺山で打ち切りとなり小海まで走れず悔しかったが、一高生だからこそ強行遠足を体験でき一生の思い出となった。

鈴木結衣(3年)写真部

高相瑠璃(1年)美術部
友人と励まし合いながら歩いた。野辺山までの道のりも長く感じ、予想以上に大変だった。教職員や保護者など支えてくれる人たちへの感謝の気持ちを胸に、来年は小海を目指したい。



雑観

トレッキングポール

疲労抑制に心強い「相棒」

いかに体力の消耗を抑えるか、は10.4kmを踏破するうえで重要だ。ウェアやシューズは軽量化、高機能化が進み、吸湿速乾や保温、足腰への負担軽減で生徒を後押ししてきた。これに近年加わったのがトレッキングポールである。(写真は3年・井上泰徳さん)「山と溪谷社」のWEBサイト「山と溪谷オンライン」によると、トレッキングポールは「バランス力の向上」「負担の軽減」「推進力」の3つの側面から歩行をサポートする。上半身のバランスが崩れにくくなり、下りでは足腰にかかる負担の軽減、平地や上りでは腕の力を活用することで推進力を得られるという。

アルミやカーボン素材とし、軽量のものでは2本で500g程度と、持ち運びの負担も少ない。伸縮や折りたたみタイプがあり、使わない時はリュックに固定、収納できる。今回の強行遠足でもトレッキングポールを使う生徒は一定程度見られた。

小諸に到達した和田侑さん(2年)は、途中リタイヤした前年に比べて何が良かったのか、と聞くと「これですね。疲労感が全然違います。ずっと使っていました」と、文字通りの「相棒」を誇らしげに見せてくれた。



甲府一高強行遠足の歴史 *history*

	開催年	コース方面	最高到達地点
第1回	大正13年	東京	64km (上野原)
	文部省より体育行事を実施せよとの通達を受け、第10代校長・江口俊博が「遠足運動」として創設した。12時間制。		
第2回～ 第3回	大正14年～15年	松本	距離不明
	笹子峠、小仏峠が険しく交通量も多かったためコース変更。24時間制。 第2回は「強遠足」、第3回から「強行遠足」の名称に。		
第4回～ 第5回	昭和2年～3年	木曽福島・松本	158km (木曽福島)
	木曽福島コースも設定。24時間制で歩けるところまで歩く。昭和2年の木曽福島到達3名。		
第6回～ 第36回	昭和4年～36年	信濃大町	男子167.1km (築場)、女子28.6km
	木曽路は国鉄の駅間隔が長かったこともあり松本以北を大糸線沿線の信濃大町へ。昭和24年、女子初参加(4名)。昭和26年、女子終点制を導入(台ヶ原)。		
第37回～ 第76回	昭和37年～平成14年	佐久往還、小諸	男子105.5km、女子47.6km
	終点制に。昭和37年は男子松原湖66km、女子箕輪新町～松原湖38km。徐々に距離を延ばし、昭和41年男子小諸100km。昭和44年女子雨のため野辺山で前進停止。昭和50年女子高根～小海42.5kmに。		
第77回～ 第81回	平成15年～19年	野辺山	男子53.7km、女子31km
	平成14年に発生した痛ましい死傷事故を受け大幅にコース短縮。		
第82回～ 第85回	平成20年～23年	小海、野辺山	男子75.3km、女子30.3km
	男子コース延長。夜間歩行の復活。		
第86回	平成24年	小海	男子76.3km、女子43.2km
	女子コース延長。		
第87回～ 第95回	平成25年～令和5年	小諸、小海	男子105.7km、女子43.2km
	男子小諸復活(105.7km)。平成26年女子雨天中止。令和5年女子野辺山で降雨打ち切り。		
例外	昭和20年、昭和34年、平成2年、令和元年、令和3年は中止。 令和2年は男子学校～まきば公園43.8km、女子学校～高根総合支所31km		

特集②

同窓生訪問

interview

- サンリオ名誉会長 辻信太郎さん(昭和20年卒)
- 日本テレビ顧問 大久保好男さん(昭和44年卒)
- 現代イスラム研究センター理事長 宮田律さん



縣立甲府第一高等学校

『みんななかよく』『スモールギフトビッグスマイル』
戦時中の経験が創業の理念につながった

サンリオ名誉会長
辻 信太郎さん

プロフィール

サンリオ名誉会長。1927年、山梨県生まれ。

47年、旧制桐生工業専門学校卒業。

49年、山梨県庁入庁。

60年、山梨県庁退職、ソーシャル・コミュニケーション・ビジネスの確立をめざし、東京都に株式会社山梨シルクセンターを設立。

73年、株式会社サンリオに社名変更。74年、キャラクター「ハローキティ」を制作。

90年、東京都多摩市にテーマパーク「サンリオピューロランド」をオープン。

20年7月、創業以来務めた社長を孫の朋邦氏に譲り、会長に就く。

22年6月より名誉会長に。サンリオが発行する「いちご新聞」で、「いちごの王さま」としてコラムを執筆している。



カートメル幼稚園での集合写真
前から3列目、左から6人目が辻さん

どんな幼少期を過ごされましたか。

実家は松林軒の近く、桜町（現在の甲府市中央1丁目）で『三省楼』という料亭をしていました。当時は珍しい3階建ての建物でした。大きな結婚式とかも行っていました。子供の頃は、カートメル幼稚園（現・山梨英和カートメルこども園）に通いました。カナダから来た先生が作った幼稚園です。その幼稚園時代からの友人 大森昭次君（大森水晶会長・元サンリオ監査役）とは今でも連絡を取り合って仲良くしています。小学校は春日小（現・舞鶴小学校）でした。ただ、母を早くに亡くしたので、子供時代は寂しかった記憶が残っています。



甲府中学弓道場改築記念

甲府中時代は。

戦争中だったからね。学業は普通でしたよ。課外活動なんかはできませんでしたね。

強行遠足は当時もありましたね。

24時間で甲府街道を歩けるところまで歩く、というやり方でした。私は松本に着いたのが23時33分でした。甲府中の強行遠足は有名だったので、沿道の人たちが出てきて、おにぎりや飲み物をくれました。飛んじやいけない（走っちゃいけない）ルールだったけど、スタート時はみんな飛んでいましたね。つらくて、途中でやめたくなったけど、友達がみんな頑張って歩き続けていたから、やめられませんでした。ただ、



甲府中時代

本当につらかったのは、翌朝、学校に行かなければならなかったこと。翌日、登校しないと一晩歩いたことが認められないのです。

甲府中を卒業して、旧制桐生工業専門学校（現・群馬大工学部）へ進学されました。

応用化学を学びたかったです。地元の山梨大学には応用科学科はありませんでした。群馬と九州に1校ずつあって、私は群馬に行きました。

帰省中だった1945年7月、甲府空襲を経験されました。

その日、いつものようにB-29が飛んできて、



甲府中時代の学友と

一度通り過ぎたので、東京の方へ向かったかと思ったら甲府に戻ってきたのです。そして、焼夷弾をどんどん落とし始めました。窓を開けて見たら、愛宕山の方が真っ赤になっていて、家には危ないと妹をおぶって逃げ出しました。焼夷弾というのは一つの爆弾がくるくる回りながら落ちてきて、途中で10個〜20個の小さい火の粉爆弾に分かれ、それが落ちたところで燃え上がって、周りが全部火事になるんです。たくさんの方が住んでいるところに爆弾を落とすんですよ。酷いことです。私は妹をおぶって、太田町公園の方へ逃げました。途中で焼夷弾が当たって亡くなった女性を見ました。恐ろしい光景でした。その一晩で、甲府は焼け野原になり、私の家も焼けてしまいました。


サンリオ本社の受付
ハローキティ50周年の記念装飾となっている

山梨県庁を経て現在のサンリオを創業された。戦時中の経験が創業の理念につながったと聞いています。ハローキティは今年で誕生から50周年を迎えましたね。

戦争というのは『人と人とが殺し合う』ことなのです。今は、それが間違ったことだと分かるけど、戦争中は分からなかった。領土を拡大したりとか、人種で差別をしたりとか、戦争中は日本もそうだったんです。日本が一番優れているという教育を受


打ち合わせスペース
ハローキティをはじめキャラクターごと部屋の雰囲気が異なる

けていたから。私は戦争で自分の家が焼けて、焼夷弾の中、妹をおぶって逃げるという経験をしました。そして、『いかなる戦争も間違っている。世界中の人たちがみんななかよく助け合って生きていくことを正しいんだ』と思いました。私が『みんななかよく助け合っていいこう』と、このビジネスを始めたのは、鉛筆一本でもノート一冊でもいいから小さな贈り物を誕生日とか、何かしてもらった時に贈ると仲良くなれるよ、と仲良しのきっかけを作ったからです。そういう精神を広げたかったです。私の子供時代は戦争でモノがなくて、他人にモノをあげる



ハローキティのぬいぐるみを抱いて笑顔

ことがなかなかできなかった時代でした。だから、『みんななかよく』『スモールギフト・ビッグスマイル』の企業理念を掲げた会社を作ったのです。

ウクライナやパレスチナなど、世界では戦火が絶えません。

まったく、とんでもないことだと思えます。戦争はあつてはならないのです。戦争は人と人との殺し合いなんです。どうして、人間同

士の殺し合いである戦争を人間はやめないので悲しくなります。

2020年に孫の辻朋邦氏に経営を引き継ぎ、創業以来の社長交代となりました。これからのサンリオにはどのような役割が求められていると考えますか。

「みんななかよく」がサンリオの最初からの理念であり、社長が代わっても、それを広めることが役割だと考えています。

甲府一高の生徒にメッセージを。

とにかく、みんなに言いたいのは『仲良く助け合って生きていつてもらいたい』ということです。これはサンリオの企業理念でもあります。今の高校は部活動やスポーツが盛んだけれど、弱者に寄り添う活動の機会も作ってほしいと思いますね。元気な人は、周りも元気にできるから、老人や病人に元気を分けてあげてほしいです。『スモールギフト・ビッグスマイル!』の精神で行動して、人が喜ぶ姿から大事なことが学べるのではないと思います。



サンリオのキャラクター

日本テレビ顧問
大久保

好男さん



「日に新たな挑む勇気と 使命感」を胸に

プロフィール

日本テレビ放送網顧問。読売新聞グループ本社相談役。日本民放クラブ会長。1950年、山梨県生まれ。74年3月、東京外国語大学卒業。75年4月、読売新聞社入社。85年1月、中曽根首相とレーガン米大統領の共同発表を事前スクープするなど、多数の特ダネ報道にかかわる。2000年6月、同社論説委員。03年6月、読売新聞東京本社政治部長。08年6月、同社執行役員メディア戦略局長。09年6月、同社取締役メディア戦略局長。10年6月、日本テレビ放送網取締役執行役員。11年6月、同社代表取締役社長執行役員。12年10月、日本テレビホールディングス代表取締役社長。18年6月、一般社団法人日本民間放送連盟会長。19年6月、日本テレビ放送網代表取締役会長執行役員、日本テレビホールディングス代表取締役会長。

甲府一高時代の思い出を。

私は長坂町で生まれ育ち、長坂から一高に通っていました。長坂駅から電車に乗って1時間。甲府駅からは山交バスで一高前まで15分くらい。ドア・ツー・ドアで1時間半くらいの通学でした。

帰りは電車が1時間に1本しかなかったもので、3時半には学校を出ていました。いつも同じ電車に乗り、やることのないから勉強すると。長坂駅から通学していた生徒は何人かいました。その一人が高根町から来ていた土屋幸治君です。彼とはいつも電車で隣に座り、カバンを机代わりにして一緒に勉強をしていました。土屋君はその後医者になり、最近まで山梨県立中央病院の院長を務めました。

中学では野球部でした。四番、サードでキャプテン。郡大会で優勝して県大会にも出場しました。ですが高校では通学の事情もあってスポーツはできませんでした。

甲府一高では3年間、勉強しかなかったというくらい、学校全体が大学受験一色でした。模擬試験とか、全国一斉学力テストとか、テストばかり。一高からは毎年十数人が東大に受かっていました。私も東大に行こうと勉強はしていましたが、私たちが入学したころは大学紛争で東大の入学試験がなくなっていました。みんな京都大や東北大などにバラバラになって行き、私は東京外国語大に行きました。ですから、一高時代を振り返ると勉強ばかり

りであり楽しみはなかったですよ。灰色の青春時代でした。

強行遠足は経験されましたか。

当時も最終到達地は小諸でした。学校を出て、葦崎から八ヶ岳の方へ向かい、清里、小海、白田を通って小諸まで。ザックにおにぎりを4食くらい入れていきました。みんな底の薄い靴を履いて行くわけです。道路も今ほど良くはない。そんなことで、男子で完走するのは1300人のうち1割くらいでした。

私は1年生のときに完走しました。最後の関門をギリギリ通過して、110番くらいだったと思います。小海の先くらいかな、トラックの運転手が「どこまで行くんだ」と話しかけてきました。小諸までと聞くと、「これを食べた元気を出しな」と運転席からリングを投げてくれました。夜通し歩く生徒のために、先生や親が出て、誘導したり、温かいものを振る舞ってくれたりしました。交通事故の心配もある中で100キロを挑戦させてくれるというのはいがたいことでした。先生たちも勇気がいるし、大変だったと思いますね。

将来の職業をどう思い描いていましたか。

私は女4人、男2人のきょうだいの末っ子で、一番上の姉とは一回り違います。特に姉たちにはとてもかわいがられました。父とは考え方がまったく違いましたが、何かを押し付けられ

るということはありませんね。

私は学校の先生、できれば学者になりたいと思っていました。経済学に興味があり勉強もしましたが、大学ではアルバイトばかりしていてあまり授業に出なかったし、学者になるのは難しいかなと。

新聞記者として活動されました。記憶に残るエピソードは。

大学を卒業して、損害保険の会社に就職しました。ところが入社してすぐにこれは自分の一生の仕事ではないなと思い、たまたま読売新聞に載っていた記者募集の記事を見て、受けたら受かったということでした。

新聞社に入り、初任地は仙台でした。そこで宮城県警のサツ回り（警察担当として事件・事故などを取材する記者）をしました。記者になったのはいいが最初のうちは記事がまったく書けない。交通事故の記事一本がこんなに難しいのかということを感じていました。

3年目で気仙沼通信部というところへ行き、そこで3年間を記者一人で過ごしました。大きな事件は殺人事件が1件。そのほかに、ネット騒動も記憶にあります。ネットが気仙沼にいたのではないかと騒ぎになり、それを記事に書きました。その記事の反響が大きくて、東京で大きな扱いになって困りましたね。それで、引き揚げてみたらクジラだったんです。で、浜に埋めて終わりというオチでした。

長年にわたり政治を取材されました。

東京に来てからは政治部がほとんどでした。中曽根康弘総理の番記者でスタートして、安倍晋太郎さんも担当しました。朝早くから、総理が就寝するまでが仕事です。当時主に取材する相手は大臣、あるいは役所の局長以上です。若い記者が行っても勉強してないと相手にしてくれません。だから一生懸命勉強しました。あと、この国の最高権力者である総理大臣も、普通のおじさんなんだというこ



とが近くで取材しているとよく分かります。そういう意味では初対面の人でも、おじけづくようなことはなくなりました。

一方で、政治家や官僚、政府の仕事を支えているのは秘書や事務官だということも分かりました。取材に応じてくれるのもそういう人たちなんです。総理大臣に直接取材する機会はほとんどなくても、総理秘書官とか事務の方とかは比較的接触ができます。そういう人たちから取材の糸口をつかむということ。逆に言う、そういう人たちに丁寧に礼儀正しく接することができないと、新聞記者としては成功しません。地位を見て態度を変えろというのが一番良くないと、先輩記者からも厳しく言われました。長幼の序を重んじて、誰に会っても同じように接することができるのが大事だと学びました。

総理番として印象に残っているのは。

中曽根さんがよく言っていた言葉に「三縁主義」があります。「結縁」「尊縁」「随縁」の三つの縁。縁を結び、縁を尊び、縁に随う。縁を大事にしなさい、ということをやっています。色紙にもよく書いていました。自分の人生を振り返った時に、あの時に付き合った人たちだね、豊かな人脈の山が連なっているような人生を歩めれば幸せなんじゃないかなと思うんです。



新聞に載る首相動静は、総理番が担当記者に情報を上げて記事になります。例えば最高裁長官が面会に来たら「ああ、最高裁判事の人事だな」と思わないとダメなんです。

また、内閣改造のタイミングで派閥の領袖が面会に来れば、人事の交渉をしているなどというのが大体分かります。そうやって取材の端緒をつかむのが総理番ですね。「ベテラン記者は首相官邸の中に針が一本落ちてても、その音を聞き分けられる」という例えもあるくら

い、神経を研ぎ澄まして官邸の動きを見ていました。

日本テレビ社長として何を念頭に置いていましたか。

2010年に日本テレビに入社し、11年に社長になりました。社長になる直前に、20年にわたって会社を率いていた氏家齊一郎会長が亡くなりました。3月の東日本大震災の2週間後のことです。震災のさなか、日本テレビは司令塔を失った船みたいなもの。社員も役員も新聞社から来た素人の私が社長になるということで相当戸惑ったと思いますけどね。

社長になった私は、最初に全社員にメールを送りました。そこで言ったのは「私も一生懸命汗を流して社業に取り組むけれども、社員一人一人が努力して会社を成長させないといけない会社は終わってしまう」ということです。現状維持でいいとか前例踏襲でいいとか言っていると会社は必ず衰えてしまいます。自分で考えて自分で提案して自分で実行してくれと。これが日本テレビのルールですよ、ということを行いました。それから社長を8年、会長を3年やりましたが、これを全く変わらずに言い続けてきました。

ほかに、「日に新た 挑む勇氣と 使命感」だと五、七、五で言っていました。「日に新た」というのは、甲府一高校歌の二番の歌い出しに出てくる中国の古典「四書五経」の中の「大学」の言葉です。毎日毎日一生懸命学んで、

新しい気持ちで学び続けて自分自身を成長させていくということ、それが周りにもいい影響を及ぼして、そして、自分自身も、周りもみんな成長していくことに繋がっていくんだから、この気持ちを忘れずにいなさいね、ということを行っているわけです。いい言葉なんだけど、高校時代はそれが分からなかったですね。

こういう自分を鼓舞する言葉を、常にどこかに持つておくというのは大事だと思いますね。誰しも困難にあう。どうするかは決断は自分でしなきゃいけない。その時に自分の背中を押してくれる言葉を自分の中に蓄えておくということが困難にあつた時に切り抜ける一つの大きな足掛かりになると思います。

SNS時代のマスメディアの役割をどう考えますか。

私は新聞もテレビもやってきましたけれども、マスメディアというのは今の情報通信技術の発展、特にSNSの急速な普及によって構造的な変化を迫られています。新聞も購読部数が減っているし、テレビも視聴者が減っている。それに代わっているのがSNSですね。情報空間の健全性を考えると、マスメディアがそのほとんどを占めていた時代と違い、今はたくさんさんのSNSの情報が入り込んできている。偏った言説、論説、主張、虚偽も入ってくる。そうすると情報空間が、ひとところに比べてどんどん不健全なものになっています。

SNSの利用は止められないが、情報の世界をどうやって健全なものにしていくか、ということが子供たちの世代、将来を考えた時に必要なことじゃないかなと思います。一つはしっかりとしたファクトチェックをして、公正で公平で事実に基づいて信頼できる情報であると、そういう要件を満たした情報を、みんながしっかりと利用していくということが大事だと思います。そのように秩序立てていく作業をこれからしていかなきゃいけないと思うんです。

新聞、テレビにかかわってきた者としては、まず自分たちの出している情報、報道内容が事実で正確で、公平で公正で信頼に足るものであるということが、従来以上に磨き上げていくことが大事なんじゃないかなとは思っています。

SNSや既存メディアにどう接すれば良いですか。

SNSにしても動画配信サービスにしても、既存メディアにしても、自分の情報源や娯楽として利用するのだから、それぞれの有用性とマイナス面を理解し、自分の責任で使い分けてほしいと思います。ネットは便利な半面、詐欺などのひどい目に遭うこともあります。フィルターバブルやエコーチェンバーといった一面的な情報に囲まれると見方が偏ることにもなります。それぞれのメディアの特性を知って、適切に接していく必要があります。

一高生にメッセージをお願いします。

もちろん勉強は大事ですが、自分の好きなこと、一生をかけて取り組めるようなことを高校の3年間に見つけ出してほしいなと思います。それは趣味でも仕事でもいいんですけれど、生涯にわたって取り組みたいものを。そのためにはやりたいことがあつたら思い切ってやってみたいとダメです。やってみないと自分にとって楽しいことなのか、好きなことなのか分からないでしょ。あらゆることにチャレンジして、そして自分が好きなことを見つけ出す、そういう3年間にしたいなと思いますよ。本を読むことはとても大事だと思います。自分で行動することには限度があつても、本を読むことによって追体験をしたり、知識を得たりすることができます。読書することで自分を磨いてほしいと思います。



現代イスラム研究センター理事長
宮田 律さん

学生時代の関わりが
世界に目を向ける
きっかけだった

プロフィール

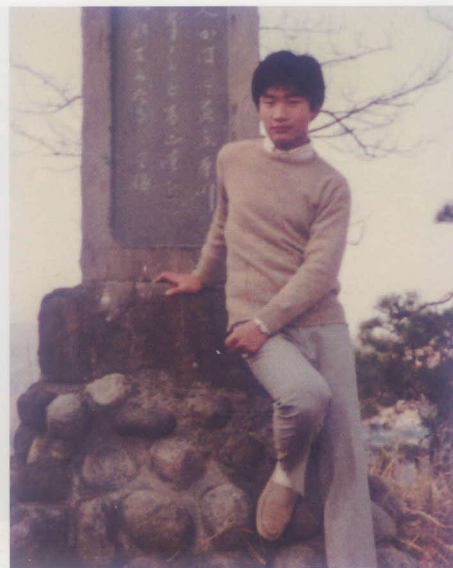
一般社団法人・現代イスラム研究センター理事長。1955年、山梨県生まれ。慶應義塾大学文学部史学科東洋史専攻卒。83年、同大学大学院文学研究科史学専攻を修了後、米国カリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)大学院修士課程修了。87年、静岡県立大学に勤務し、中東アフリカ論や国際政治学を担当。2012年3月、現代イスラム研究センターを創設。専門は、イスラム地域の政治および国際関係。著書に、『現代イスラムの潮流』(集英社新書)、『イスラムがヨーロッパ世界を創造した』(光文社新書)、『人口からみた宗教の世界史』(PHP新書)などがある。

どんな幼少期を過ごされましたか。

実家は甲府市中央で印刷業をやっていて、兄、姉と私の3人きょうだいでした。春日小学校で「チェリー」という少年野球チームに入り、市の大会、県大会で優勝したのが良い思い出です。そのチームには後に甲府二高野球部でも活躍する細井一君、三森正広君、小河敏彦君がいました。(山梨大) 附属中に入ってから野球部で活動しました。父親は小さい頃は厳しかったですが、だんだんと甘くなり、中学時代は雨が降ると車で学校まで送ってくれることもありました。

一高時代は。

入学式の後の応援練習は記憶に残っています。応援団が怖いので、一日で校歌、応援歌、すべて覚ええました。通学は中学の時と同じように自転車、雨が降るとバスで行っていました。ある雨の日、バスは一高生でいっぱいだったんですが、一高前のバス停で全員降りられず、何人か一高生を乗せたまま次のバス停に向かってしまったんです。怒った男子生徒が、次のバス停で降るとバスを蹴飛ばし、運転手に「学校に通報するぞ」と怒鳴られていたのを覚えています。あとはある日の午前中、学校近くの銭湯に、藤原茂樹君と一緒にいったのも思い出しますね。授業中でしたが、体調の問題もあって部活動はどこにも所属することはありませんでしたし、強行遠足も経験していません。



一高時代

研修旅行で白樺湖に行ったことがありました。クラス討論で何を議論するかということになった時、女子生徒が「高校生の男女交際について話し合います」と言い出したんですね。そんなことを皆で議論するのかとちょっと面くらいましたね。だつちもねえなあと。その時のことは覚えています。

高校時代、私の人生に大きな影響を与えた先生がいました。一高の教員ではなく、個人的に英語を教えてもらっていた山梨大の丸茂賢蔵という先生です。丸茂先生は甲州弁丸出しのとても面白い人でした。藤原君とか何人かが先生のお宅に通って英語を教わっていました。1回間違えると「梅干しだけでご飯を食べます」という親への誓約書を書かされるわけです。2回間違えると「今月のお小遣いを辞退させていただきます」と。3回目は「坊主頭になります」と。4回目は「死にます」と。今だとパワハラみた

いな話になっちゃいますけど。

実際に、一人が4回間違えた翌週に先生の自宅に来ると、「て、生きてるじゃんけ」なんて言つて。笑いましたね。

生徒をからかつて楽しんでいる様子が私にはとても楽しく思えました。先生が自由に生きているように見えましたし、私も将来そういう先生になれたらいいなと、そこから大学の教員に関心を持つようになったんです。

一高を中途退学されました。

一高にすっかり通えたのは1年生の2学期くらいまでです。野球に熱心だった中学校の頃から脊椎に痛みが出るようになり、中3の時には入院もしました。一高に入ってからさらに悪化して、いよいよ通うのが難しくなりました。

先生から勧められ、休学して治療に専念することにしました。県内や東京の複数の病院に入院しましたが、なかなか良くなりません。信州大の先生にも治療にあたってもらい、ようやく症状が改善しました。復学も考えましたが、2歳年下の後輩たちに交じって勉強するのも面倒くさくなってしまつて。ほら、この年頃つて2歳の差つて大きいでしょ。それから自分で勉強して大検（大学入学資格検定試験）を受けようと思つて退学しました。最近も脊椎管狭窄症で手術を受けましたし、脊椎にはついていませんね。

大検の取得から大学受験まで、一人での勉強は大変ではなかったですか。

自分で教科書や参考書を買つて勉強しました。科目が多かつたのが大変でした。大検の試験会場が一高で、受験生は勤労学生が多かつたように思います。体育の試験ではマット運動で前転、後転を3回ずつとか、バスケットボールのシュートを時間内に何回入れられるか、という実技もありました。確か8月ですごく暑い中でしたが、一高の先生が「宮田君、頑張れよ」と激励に来てくれたのがうれしかったですね。

大学受験は模擬試験を受けて自分の実力がどのレベルかを把握して臨みました。国立の志望大学には受かりませんでした。私学にはすべて合格して、慶應義塾大学の文学部に進みました。もともと家には仏教史とかインド哲学の本がたくさんあり、東洋的なものには慣れ親しむ環境にありました。東洋史を選ぶ人には変わり者が多いですね。文学部だったら英文科とか西洋史が人気ですから。

米国でも学びましたね。

慶應では修士までいつて、その後はイスラムの現代史で世界的に有名だった米ロサンゼルス（CLA）のUCLA（カリフォルニア大学ロサンゼルス校）のニッキー・ケディという教授を頼つてアメリカに渡りました。ロサンゼルス・エンゼルスといえば大谷翔平選手の活躍が記憶に新しいで



アフガニスタン・ホジャバハウディンにて。
2001年10月。米軍のタリバン戦争開始直後

すが、当時、よくエンゼルス試合を観に行きましたよ。

UCLAにいる時、イラン現代史の分野で業績を残すこともできました。図書館の書庫を回って、自分が書いている論文はこの雑誌に一番合うのか探したんです。現代史の論文を多く扱っていたイギリス・ロンドンの「ミドル・イースタン・スタディーズ」という雑誌を見つけて投稿し、論文が掲載されたこともありました。当時、学生の論文が一流雑誌で採用されたのは快挙だと指導教授から言われたのは嬉しかったですね。

静岡県立大学で教鞭をとりました。

教員になって、イラン現代史だけで1年間教えるわけにもいかない。そこで民族・宗派間

題、パレスチナ問題、アメリカの中東政策、イスラム原理主義という4つの柱で授業を構成しました。時事的な問題も絡めながら講義を用意していきましたが、そこでおしゃべりしていたり寝ていたりマナーの悪い学生がいると、腹が立つんですね。「聴く気がないなら出ていきなさい」と。自分が学生の時にもそういう先生はいましたが、あまり言い過ぎると、真面目に受けている学生も不愉快になると思うんです。ですから勝負は年度の初めですね。最初の講義でマナーの悪い学生がいると、その学生はつきり注意するんです。そうするとみんな「この先生は怒る先生だ」ということで、寝る学生もいなくなります。

パレスチナ・イスラエル問題について解説してください。

パレスチナ問題の起源はヨーロッパのユダヤ人排除から始まります。ヨーロッパではキリスト教とは異なる宗教であるユダヤ教を信仰するユダヤ人に対する差別や暴力が行われました。旧ロシア帝国のボグロム（ロシア語で暴力的襲撃の意）やナチス・ドイツによるホロコーストなどです。ヨーロッパでは1789年のフランス革命によって一つの国家は一つの民族（国民）によって構成される民族国家（ネーションステート）の考えが生まれますが、差別や偏見のためにヨーロッパ諸国の国民になれなかったユダヤ人の間では自分たちも国をもとう、国を昔住んでいたパレスチナに建設しようという考え（「

シオニズム）が生まれます。

第2次世界大戦が終わりナチス・ドイツによるユダヤ人大虐殺（ホロコースト）の実態が明らかになると、ヨーロッパ諸国や、ユダヤ人の亡命を受け入れなかったアメリカではシオニズムに対する支持が強くなります。しかし、パレスチナにはアラブ人が元々住んでいました。アラブ人は大多数がイスラム教徒ですが、クリスチャンもいます。彼らにしてみれば自分たちの犠牲の上になんで欧米諸国の贖罪がされなければならぬのかという反発が生まれます。

1947年の国連のパレスチナ分割決議にもパレスチナ・アラブ人やアラブ諸国は反対し、48年にユダヤ人の国イスラエルが国連決議に基づいて独立宣言をすると戦争になりました。これが第1次中東戦争です。アラブ諸国とパレスチナ人のイスラエルとの戦争は4回戦われましたが、欧米、特にアメリカの軍事支援を受けるイスラエルがすべて勝利します。軍事的には太刀打ちできないと判断したアラブ諸国やパレスチナの間ではイスラエル国家の存在を認め、共存していこうという動きが現れ、それがエジプトなどアラブ諸国とイスラエルの平和条約になったり、1993年のオスロ合意になったりしました。

しかし、1987年に成立したハマスのようにいまだにイスラエル国家の存在を認めない勢力もいます。ハマスは2007年からガザ地区を支配していますが、イスラエルにロケット弾を撃ち込むなどイスラエルとの戦闘姿勢を崩しませんでした。ハマスの攻撃に対するイスラエル



2016年11月12日、アラブ・イスラーム学院にて

の報復爆撃などが繰り返され、少なからぬガザ市民の犠牲が出ています。ガザ地区には250万人ぐらいの人々が暮らしていますが、イスラエルはハマスがガザを統治すると、ガザを経済封鎖してパレスチナ人たちの生活はいつそう零落するようになりました。イスラエルはアラブ諸国やパレスチナ人という敵に囲まれた環境で発展してきたため、安全保障については敏感、過敏にふるまい、自らの生存のためだとしてパレスチナ人の市民までも殺害するような事態になっています。

イスラエルには、病院、学校、モスクなどの社会基盤を破壊し、民間人に損害を与えることによってハマスやヒズボラ（レバノンに拠点を

置くイスラム教シーア派組織）への支持を失わせる「ダヒヤ・ドクトリン」という戦略があります。ガザ地区への攻撃も、人道上の停戦要求や国際的な非難が巻き起こってもびくともせずにやっています。イスラエルという国はユダヤ人のナシヨナリズムでできた国ですから、徹底的に異質な人たちを排除する。自分たちがそれでやられてきたわけです。フランス人にもなれないし、ドイツ人にもなれないし、それでシオニズムという考えが生み出されたわけです。そんな歴史から、アラブ人を排除する考え方が形成されてきたと思うんですね。

人類にとってナシヨナリズムというのは癌みたいな発想だと思います。今では日本、東アジア全体がナシヨナリズムに覆われている感じもあります。日本も外交よりも、反撃能力とか防衛費の増強という話が強調されがちです。

一高生に、高校時代をどう過ごして
もらいたいですか。

受験勉強で忙しいでしょうが、読書する習慣を身に付けてほしいですね。ロシアのウクライナ侵攻、ガザでの戦争など世界には平和と真逆な現象が起きています。どうしたら平和を築けるのかという問題関心をもつてほしいと思います。

アフガニスタンで用水路を築くなど人道支援を行った中村哲医師は「人々が十分に食えることができれば、暴力に訴えることはない」と考え、人々が食料を得られるように、砂漠

に水を引き、田畑をつくりました。アフガニスタンのような貧しい国では、人々は武装集団に入ることによってしか生活手段を得られません。つまり、食えることができないのです。10代の若者たちが、生活のために政府軍や武装集団に入って友人同士でも敵味方に分かれて戦っています。

アフガニスタンだけでなく、世界の貧しい国ではこのようなことはめずらしくないのです。戦争で平和をつくることはできません。戦争ではなく、人々に食べる手段を与えることによって、平和の実現を考えた中村医師の生き方を知ってほしいと思います。いかにしたら世界の人々は平和で幸せな暮らしを送れるかのような問題意識を持ち、人のためになるようなことを行っていくしてほしいと思います。



ウズベキスタン・ヒバにて。2014年9月

特集3

輝く

榎 あずみさん

空手道部、文学部での
活動を振り返る



空手道部と文学部を兼部し、令和5年度のインターハイ(全国高等学校総合体育大会)、総文祭(全国高等学校総合文化祭)に山梨県代表として出場した一高生がいる。榎あずみさん(18、現・早稲田大学1年)だ。学業と並行して二つの部活動に取り組み、双方で県トップクラスの成果を残すのは言うまでもなく至難の業。文武両道での「ダブル代表」の軌跡を追った。

令和5年6月17日、甲府市の小瀬武道場。空手道女子個人形の部のインターハイ県予選会場に、榎さんはいた。7人で競う第1ラウンドを安定の演武で1位突破し、迎えた2次ラウンドBパート。4人の中で最高得点となれば、Aパート1位と争う決勝へ進出し、その時点で上位2人に与えられるインターハイ出場枠を得る。

インターハイは甲府一高に入ってから最大の目標だった。兄の背中を追って空手を始めたのが小学1年の時。持ち前のセンスと根気強さで頭角を現し、小5で全国大会2位の成績を収めた。

ユース年代となつてからライバルとして立ち上がったのは日本航空高勢だ。女子個人形で全国覇者も輩出し県内外から強豪が集まる日本航空には、榎さんとインターハイ出場を争うレベルの選手が3、4人在籍していた。前哨戦となる県総体で榎さんは3位。その前の新人戦は日本航空勢の後塵を拝して表彰台に上がれなかった。

「県内で上位2人に入る力は十分あったが、自信を失いかけていた」。全日本選手権個人形の元チャンピオンで、空手道部顧問の大木格教諭はこう振り返る。焦りや不安といった精神面の揺らぎは力みとなつて演武に表れる。ほかの部員とともに平日2時間半、休日は3時間の稽古に没頭し、インターハイ予選に備えた。

この県予選第2ラウンドで敗退すれば、競技生活で最後の演武になるかもしれない。「これで終わりにしたくない」。静かな闘志を胸に、およそ4分間の形「スーパージンペイ」に臨む。

熱気と緊張で静まる空間。気合の演武が始まる。目前の仮想敵に対し、ゆったり流れるような「静」から、突きや蹴りの一撃で相手を倒す「動」へ。道着がきぬ擦れす

▶ 迫力の演武



▶ 県総体での演武（令和5年5月、小瀬武道館）



る乾いた音と、圧倒的迫力の掛け声だけが響く。持ち味の重厚さ、キレのバランスが審査員に評価され、得点は4人中トップとなる24・60点。この瞬間、すでに決めていた文学部での総文祭出場と、空手道でのインターハイ出場という「ダブル代表」が決まった。祝福する部員の仲間たちに囲まれ、ようやく榎さんに笑顔が戻った。

一方、文学部門での総文祭出場は、令和4年11月の芸文祭（県高等学校芸術文化祭）で内定した。文学部門には19校から1660人が参加。当時2年の榎さんは、この中の詩部門に出品し、112人・131作品の中から優秀賞を受賞した。最優秀賞が3年生だったことから、1名のみを与えられる出場枠を手にした。

榎さんの受賞作「消さなきや」に、こんな一節がある。

うらやましい。そして憎い。
彼と、「わたし」が。
憧れは憎しみへと変わり、
信念がない、
「わたし」が分からない「わたし」を
黒く染めることはたやすかった。

信念に従って生きる「彼」と、失敗を怖れ自分を守ることに必死な「わたし」が、淡々と、対照的に描かれる。「常に一人」でも「世の中に最も影響を与える」「彼」に憧れながら、自分の間違いを「消さなきや」





▲空手道部の仲間と

と必死な「わたし」。思春期らしい自意識と葛藤が、繊細な筆致から垣間見える。

榎さんは小説、ライトノベルなどの読書を通じて文学に親しんできた。空手道部と同時に文学部にも所属し、顧問の小林夕希教諭のもと、俳句や詩の創作に向き合っていた。高い評価を受けたことに、「まさか入賞するとは思わなかった」と笑う。

令和5年7月。空手道の県代表として北海道に渡り、インターハイの女子個人形の部に出場した。結果は1次ラウンド敗退。全国大会での高みには到達できなかったものの、空手道での目標を見事に達成した。幼少期からの道場通いや県内外での大会出場と、送迎などで「ものすごくお世話になった」という両親に、大舞台での演武を見てもらうことができた。

インターハイを終えると、いったん甲府市の自宅に戻り、すぐに総文祭の開催地・鹿兒島県へ。文学部門では、都道府県代表の参加者と創作詩を披露し合い、文学を通じて交流を深めた。こちらはもちろん黒帯の道着ではなく、制服姿だ。

甲府一高での高校生活について「本当に楽しかった」と榎さんは言う。学業、学校生活、部活動。そして空手道と文学での県代表という快挙は、榎さんにとって確かな自信となるだけでなく、仲間たち、教職員にも大きな刺激となったはずだ。

一高同窓会

マメ

知識

同窓会と言えばクラス同窓会、学年同窓会だけだと思っていた20代。30代になるとサブ幹事として同窓会に携わり、母校や先輩への感謝、後輩への恩返し、伝統継承の重みを知ることとなります。先輩、後輩と語らうことは人生においてより豊かな時間となることでしょう。

Trivia 1 【一高同窓会】いちこうどうそうかい

歴代の卒業生が所属する組織であり、学校内に事務局があります。卒業式の前日に開催される同窓会入会式を経て同窓会会員になります。

毎年5月に甲府中学・甲府一高同窓会の総会・懇親会が開催され、20代から90代の同窓生が集まり、懇親を深めています。コロナ禍前は51歳になる学年が当番幹事、34歳になる学年がサブ幹事でしたが中止により1年ずれ、現在は52歳になる学年と35歳になる学年が実行委員を務めます。

Trivia 2 【東京同窓会】とうきょうどうそうかい

昭和35年に東京支部として発足した関東在住の一高同窓生からなる組織です。毎年7月に総会・懇親会が開催されます。当番幹事は58歳になる学年、サブ幹事は42歳になる学年で、今年の7月は昭和60年卒、平成14年卒が当番幹事・サブ幹事を務め、第64回を迎えることとなります。

Trivia 3 【一紅会】いちこうかい

平成8年に東京同窓会の女性ネットワークの会として発足。男女共学になってからの昭和28年卒から現在は平成3年卒までの約60人で構成。年に2.3回会合を設け、3月には活躍している同窓生を講師に招き、一紅会主催 春の講演会を開催しています。

平成3・20年卒当番幹事の皆様、おめでとうございます。

そして、ありがとうございます。

当番幹事を務めたからこそ、深まった“絆”がある。

当番幹事を終えたからこそ、広がった“輪”がある。

私たちは心よりそう思っています。

皆様の活動への想いが同窓生へ、平成4・21年卒次年度当番幹事へ在校生へと届きますように。

甲府一高平成元年卒業生一同

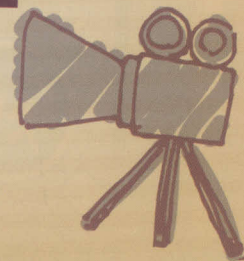
祝

第144周年 甲府中学・甲府一高同窓会

ありがとう 一高

一高には様々な分野で活躍している同窓生がたくさんいます。

今回は各分野で活躍されている4人の方に、どんな高校時代を過ごしたのか、卒業後どのような道を進まれたのかをお聞きました。



恩師、須藤獏先生との 出会いから半世紀

中込 靖成（昭和51年卒）



出身中学：田富中学校
一高在学時の部活動：美術部
画家 東京造形大学卒 カリフォルニア州立大学ベーカーズフィールド校研究員 日米国際作家交流CROSSCURRENT代表

それは今日まで続いている。

獏先生の厳しい講評とともに聴く美術のみな
らず文学や幅広い芸術論に文化論更に先生ご自
身の戦争体験、戦後のパリ留学時代の話など、ま
だ見ぬ世界の話に私の心は躍った。

時折部室を訪れるOBとの出会いにも大きな
影響を受けた。美大生、美大浪人生、既に作家やデ
ザイナーとして活躍中の先輩達、獏先生の教え子
で画家として海外在住の先輩方からの指導や交
流もあった。これらの出来事は、私のような農家
の長男で田富中学校卒の高校生にとっては初め
て文化的な世界を肌身感じた瞬間だった。一年
生の2学期には進路を美大と決めた。

大学卒業後、自分が恩師と出会えた様に高校生
と接したいとの思いもあり、山梨県の教員採用試
験を受けた。美術科教諭として石和高校に赴任し
た。年齢差を超えた教員同士のつながりや生徒と
の出会い、6年間の教員としての学校生活は今で
も人生の大切な宝となっている。

その後、東京で学生時代の友人らと建築とアー
トワーク（環境美術）を手掛ける会社を設立した。
都心の再開発事業の一端を担う大規模プロジェ
クトも手懸け、10年あまりを没頭した。

友人で稀代のエッセイスト小田嶋隆（2022
逝去）による当時の一文に「人生で本当にやりた
いことがあるなら預金や退職金を当てにせず、体
力のある若い時にこそ全身で挑戦しろ」という言
葉にも背中を押され、単身ロサンゼルスに渡り、
絵描きとして歩き始めた。ニューヨークで起きた
世界貿易センタービルへのテロ、September11th
の直後のことであった。

ロサンゼルスと日本を行き来する中、山梨県立
美術館の推薦で文化庁新進芸術家海外研修員に

いわゆる絵描きのみの生活（Full time artist）
となつて四半世紀を超える。定年退職、引退や老
後とは無縁の、今後も絵を描き続ける人生なのだ
ろうと思っている。私はこれを幸いなことと思
う。この人生のスタートが一高の名物教師の一
人、須藤獏先生との出会いだった。

私にとつての高校時代は美術部の部室で過ご
した時間がほぼ全てで、実際、教室にいた時間よ
りもはるかに長かった。この点に関しては、多く
の科目の先生が、必要出席時間数の最低限はクリ
アするという条件で、授業中教室を離れて部室で
絵を描くことを黙認してくれていた、というおお
らかな時代背景もあつたのことだった。

入学当初から美術を専攻していたわけではな
かった。獏先生の授業に感動して美術部に入部し
たことから始まり、やがて薄暗い部室の中で石膏
デッサンに明け暮れる日々を過ごすようになって
た。3年間切磋琢磨する仲間がいて絆も深まり、

選ばれカリフォルニア州立大学ベーカーズフィールド校の研究員として2007年―2008年を過ごせたのは今では思い出深いことのひとつである。

私は本当に多くの友人に恵まれた。アメリカ人はもとより、インターナショナル都市ロサンゼルスで様々な国のアーティストや美術関係者にも交流の輪が広まった。彼らを介してアジア、ヨーロッパ、アフリカ、中北米の各地で展覧会の機会を持つことが出来た。

コロナが明けた昨年は、イタリア・ナポリにあるエルコラーノ美術館の大会場で三年越しに個展が開催された。現地マスコミ、美術ジャーナルにも取り上げられ大きな反響となった。展示作品の一部は同美術館の収蔵品となった。

これまでの活動で気づいたことのひとつに、海外の多くのアーティスト達が、来日や日本での展覧会を強く希望しているということだった。昨今の日本ブームが始まる前からのことである。同時に若い時の海外経験が一人の人間の成長にとって大きな意味を持つことを、自ら体験した私は、国際的な作家の交流組織を立ち上げた。この20年間で300人を超える内外のアーティストが直接出会い、交流する機会を相互の国に於いて創ってきた。

今日まで私の活動を支え、励ましてくれた、多くの友人知人と家族に感謝しつつ、今後については、冒頭で書いたように自身の美術の研鑽を続けると同時に、自らの経験を生かした国際交流ステージを創出し、微力ながらも美術・文化を通しての国際交流・平和に貢献したいと意を新たにしている。

アメリカ永住権が 当たって30年

土橋 八恵(昭和58年卒)



出身中学:城南中学校
一高在学時の部活動:演劇部
ロサンゼルス日本語ラジオ局アナウンサーを経て、2002年起業。中国語雑誌J-goodsを創刊。2018年に日本にも事業拠点をと、山梨では珍しい外国会社を登記。

創立144年の歴史の中で、米国永住権を抽選で当たった同窓生は、そういないだろう。1年弱の語学留学を経て再渡米した1991年。友人につられて応募したら、友人の中で私だけが当選した。

一高時代演劇部部长。仲間とミュージカルを作って学園祭で披露し、幼稚園にも公演に行った。3年の進路希望調査で、第一希望「劇団四季」第二希望「無名塾」と書いて、担任の望月先生に呆れられた。

卒業後、広い視野を持つとうと、女性一人のバックパッカーは珍しかった当時、ヨーロッパを1ヶ月半歩いた。その後、英語が出来たらもっと視野が広がると、バイトで資金を貯め米国語学留学。懲りずに南米バックパック旅行を試みるも、ペルーのリマに降り立ったとき、ヨーロッパとあまりに違う環境や治安に戸惑い、泣きながらそばにいた日本人旅行者に助けてもらった。

帰国後、アメリカへの思いが募り2年で再渡米、前出の永住権当選となる。

再渡米後は日系旅行会社勤務を経て、1997年ロサンゼルス日本語ラジオ局アナウンサーに転職。一高演劇部での発声練習や人前での表現が、ここで形になった。2001年9・11アメリカ同時多発テロ、まさに生放送直前、ニューヨーク貿易センタービル崩壊の瞬間をモニターで見ていた。刻々届く状況を、冷静に正しく伝える責任の大きさに震えたのが印象に残っている。

自分の名前で食べて行けるようになりたいと、2002年独立起業。「異文化の架け橋になる」を社是に、在米中華系に日本の文化や商品を紹介する中国語雑誌「J-goods」を創刊。なぜ中華系をターゲットにしたの?中国語は話せるの?出会う人に必ず聞かれた。起業当時は、まだそれほど注目されていなかった中華系市場。彼らの瞬発力に、何かとてつもない可能性を感じた。中国語は話せなくても、翻訳家がいればなんとでもなる。そんなこんなで、2020年まで全米配布をしていた「J-goods」が、なかなかだっと思っている。

広いLAでフリーウエイを運転中、よく口ずさんだ一高の校歌。「新しき世の鑑とし」は、自分の立ち位置を映し、顧み、励ましてくれた。

日本にも事業基盤を作りたいと、アメリカの会社の営業支社として山梨に外国会社登記をしたのが2019年。東京オリンピックで世界中から集まってくる人たちに、他言語雑誌を20年間作ってきた経験は役立つはずと、地元自治体やJRとの展開が進みかけていたが、誰も想像し得なかった事態に、事業のすべてが凍結。これはもう仕方ないと腹をくくって、27年ぶりの山梨暮らしを楽しんだ。

あれから3年。取得30年が過ぎた米国永住権を手、日米を行き来している。アメリカでは雑誌事業と並行して行っていた、マーケティング事業、商品開発やイベント企画運営などを続けている。日本では海外経験者の視点を活かし、問題解決提案に取り組んでいる。

この記念誌が手元に届く頃は、いま携わっている日本の海産物のアメリカ市場拡大プロジェクトが一段落しているはず。原発処理水放出に絡む国家事業の一端を手伝えるのは、身の引き締まる思いでもある。

ここまでまとめて、改めて思う。いづつどんなときも、新しき世の鑑となっているかを自分に問いながら、眼の前のことに精一杯取り組む。それは一高で受けた教育だった。

新しい街や建築を想像し、創造する楽しさ

千野 保幸（平成3年卒）



出身中学：甲府北中学校
一高在学時の部活動：ハンドボール部
株式会社日本設計 第2建築設計群 副群長兼チーフ・アーキテクト。関東学院大学非常勤講師。秋田県立横手清陵学院、北國新聞赤羽ホール、パーク24本社ビル、日本橋室町三井タワーなどを手掛けた。

私は絵を描いたり、プラモデルを組み立てたりと幼いころからモノづくりが好きで子供でした。また、実家の増築の際に大工さんが木の端材でチャチャッとゴルフクラブを作ってくれたのを見て憧れを抱いたこともあり、何となく建築に興味を持ち大学は建築学科に進みました。

大学・大学院にて建築設計を学び、設計事務所へ就職することができましたが、実際の仕事はキムタクのドラマの様に華やかではなく、週に何回も徹夜をしたり、地方の現場から深夜バスで東京に戻ってからそのままクライアントとの打合せに行ったり、と結構ハードな日々で、若い頃は今のライフワークバランスを優先する社会では考えられない状況で仕事をしていました。この過酷な状況乗り越えられたのは高校時代の部活や強行遠足の試練を乗り越えてきた自負にあつたと思います。

当時を振り返ると学校の敷地外にあるハンドボール専用コートにて泥まみれになりながら、夜遅くまで練習したのを思い出します。猛暑の中の辛い練習や数々の試合での熱戦など、仲間たちと乗り越えてきた経験のおかげで大学進学後もハンドボールを続け、インターカレッジにも出場する事が出来ました。また、102km走り切った強行遠足の経験は大事な思い出で、その後つらい思いをした際には「強行遠足と比べればたいしたこと無い」と自分に言い聞かせてきました。

入社してから様々なプロジェクトに関わってきましたが、幸運にも入社12年目に甲府市新庁舎の設計に携わる事が出来ました。設計プロポーザルに参加する際に私が地元出身者という事もありチームリーダーに任命されました。甲府市は年間日照時間日本一なので、甲府盆地の景観のシン

ボルであるぶどう棚に模して太陽光発電パネルを底状に並べたデザイン「ぶどう棚庁舎」をコンセプトに甲府らしさを持ち、自然エネルギーを活用した案を提案しました。このデザイン提案が功を奏したのか、他社優勢の下馬評をひっくり返して当選することができました。チームメンバーと歓喜したのを覚えております。

本格的に設計が始まった後に知ったのですが、大正十年に建てられた旧甲府市役所は東京タワーや大阪通天閣、札幌テレビ塔等を手掛けた甲府中学卒業の内藤多伸先生の設計です。実は私もアナログ放送から地上デジタル放送への移行時期に高知と釧路のアンテナ基地局の鉄塔を設計しており、新庁舎を設計するにあたって勝手ながら何かの縁を感じていました。

地元の設計事務所4社と設計JVを組み、市の庁舎建設部の方々とワークショップに参加した市民の皆さんから意見を頂きながら設計を進めました。設計から施工までの関係者の中には沢山の一高卒業生がおり、地元貢献できる喜びと、卒業生としての誇りを胸に、一緒に力を注ぎました。

東日本大震災後に免震構造で安全安心な市庁舎としてオープンした市役所でしたが、残念なことに竣工から数年後の2015年2月の早朝に窓サッシが落下する事故が発生しました。当時新聞に連載特集されたので、ご存じの方も多いと思います。幸いにも開庁前の人がいない時間帯に起きた出来事なので、怪我人は無かったですが、多くの皆様にご心配とご迷惑をおかけしたことに、心から深くお詫び申し上げます。事故後は各関係者にて真摯に原因究明と再発防止に全力を挙げ、市長から安全宣言をして頂きました。

両親には息子が故郷に錦を飾ったと喜んでもらっていた矢先の突然の事故で、私には直接何も言わなかったですが、迷惑を掛けたと思います。この場を借りて感謝の意を伝えたいと思います。現在の私は、山手線で55年ぶりに開業した高輪ゲートウェイ駅と一体的につながる新たな街づくりに設計者として参加しています。この「品川開発プロジェクト」は鉄道発祥の高輪築堤を継承しながら超高層オフィスビルや超高層住宅、商業施設や文化施設などがある約100万㎡規模の大型プロジェクトで、品川の未来を築くものです。街を訪れる人、働く人、住まう人の笑顔が見られるように、これからも設計者として新たな街や建物を想像し、創造していく挑戦を楽しみたいと思います。

いつか故郷・山梨で ドラマ作りをしてみたい!

萩原 崇(平成13年卒)



出身中学: 泉中学校
一高在学時の部活動: 音楽部
関西テレビに入局後、AD・ディレクターを経て、ドラマの担当に。『シグナル』『CRISIS』『彼女はキレイだった』『合理的にあり得ない』など制作。

自分は、昔からテレビっ子で、特にドラマが大好きでした。そして今は、関西テレビという大阪のテレビ局に勤め、ドラマの制作をしています。今回、こんな自分のことを同窓会誌に書かせていただくという、身に余る光栄な機会を頂き、あらためて振り返ると、高校時代に体験できたたくさんの経験と感情が、今も自分の大きな根幹になっていると思います。

自分は、1998年に一高英語科に入学し、3年間、出身の北杜市からの遠距離通学をしたのですが、高校時代を振り返り、一言で言うならば、「挫折を知った時間」でした。中学までは、いわゆる成績優秀。田舎の中学校で、優等生な生徒会長として、ノリに乗っていました(笑)しかし、一高に入ってから、まず勉強についていけない。決してサボっているつもりはないのに、走っても走っても追いつけない、そんな感覚でした。また強行遠足を完走することができず、3年の時になんとか、りんごは持ち帰りましたが、事前の練習もせず、靴にもこだわらず、軽い気持ちで臨んだら大失敗をする、そんな人生の教訓を身をもって学びました。もちろん、かけがえのない友人や、甘酸っぱい恋の思い出や、当時部員が少なかったけれど音楽部の練習に打ち込む青春の日々という、たくさんの宝物も得ることができました。

そして、大学進学し、将来の仕事を考えてとくに、「ドラマ」を制作したいと思い、テレビ局に入りました。ADのぼろ雑巾のような日々も過ごした末に、今は、高校時代にハマった「魔女の条件」や「ビューティフルライフ」のような、素敵な恋愛ドラマを作りたく、「プロデューサー」という職務で番組作り全体の舵を取り、裏

で支える仕事をしています。

私のドラマが好きな理由は、たくさんの人生を味わえることです。実生活でどんなにモチなくても、どんなにつまらなくても、禁断の恋も味わえるし、空港爆破のハラハラの大事件にも巻き込まれ、悪党を逮捕し、スーパードクターとして難手術もできちゃいます。そして、そんな物語の中で力強く生きる人物たちの姿に、勇気や元気をもらうことができます。昨日までは落ち込んでいても、スーパーヒーローになった気分、力強く歩き出すことができます。自分が担当した「シグナル」ではあきらめない気持ちを、「CRISIS」ではどんなピンチも楽しむ強さを、「彼女がキレイだった」では初恋の純粹さを、それぞれ込めたつもりですが、見た方が「おもしろかった」と言ってくれると、すべての苦労も、赤字を出して始末書を書いた記憶も、上司から怒られた記憶も吹き飛んじやいます。一高時代に多くの挫折を知った分、苦労の多い人生も楽しいんだと思えるから、主人公の運命がどれだけ過酷でも、きつとその先に明るい未来があると思え、そんな人物の人生の素晴らしさを描いていきたいと思えます。高校時代の友人からも「おもしろい」「見てるよ」の感想もあれば、「あれはおもしろくなかった」と遠慮のない感想ももらえるのも楽しみの一つになっています。

いつか、山梨を舞台に、素敵なドラマ作りをすることが、今の自分の夢であり、目標です。ぜひ応援していただけますと幸いです。お読みいただき、ありがとうございました。



甲府一高の思い出

一組担任
小尾 裕志 先生

第144周年甲府中学・甲府一高同窓会総会の開催、誠におめでとうございます。また平成3年及び平成20年卒業生の皆さん、当番幹事ご苦勞様です。

元号が平成に改まった4月、甲府一高に赴任した。懐かしさで一杯の我が母校に胸は高まった。校舎内外、設備、学校周りもほぼ昔のままであった。在学中はしげく日新ホールに通い詰めた。3校時に早昼食、4校時後に正規の昼食。ソースを入れて味変を楽しんだラーメン、チキンライス、天丼など今の私の味覚の基

本はこの時育てられた部分もあるだろう。部活が終わると前店でアイス、菓子、愛文堂でマンガ本・雑誌を借り、朝日町の富士アイスで1個50円のみまん焼きを友人と2つに割って食べながら自転車漕いで帰宅した。そんな思い出が次々とよみがえった。

まずは2年8組の担任、文系であった。女子が多く、非常に楽しいゆつたりした時間を過ごした。名前と顔が一致しないまま出かけた4月

の修学旅行では、京都円山公園での通過チェック係だったが、ほとんど機能していなかった。また夏休み前のある夜、今の時代では結構な騒ぎになっただろう、クラスの大半が関わる大きな出来事があった。あの時は真っ青だったが、今では懐かしい思い出である。2年8組のみんな、本当にありがとう。

そして迎えた3年次。ひよんなことから理系1組の担任を任されることになり戸惑った。前年授業等である程度顔を合わせていたものの、はじめてのホームルームでは、「なんであんたが理系の担任なの、体育の教員なの？」とでも言うかのような冷たい視線が心に刺さりまくった。「よし、じゃあやってやるう」なんとかこつちを向かせようと強く思ったことを覚えている。幸いにも当時の理系のノリがうまく私を巻き込んでくれて、気心の知れた間柄になるのにそれほど時間はかからなかった。さてこの年の事を語る時、大きな2つの出来事が思い出される。一つ目は強行遠足の中止である。台風の影響で大会の実施が心配され

る状況になった。生徒の安全と健康管理、また保護者の協力体制の確保からも実施の可否については慎重に議論された。その結果、台風の進路予想から、大会を延期しても影響は避けられないと判断し中止が決定された。この決定時私も同席していたが、なるほどこれは致し方無いと考えた。生徒も同じだっただろう。しかし何と翌朝、窓から差し込む強い陽光と、チュンチュンというスズメのさえずりで目が覚めた。一瞬にして血の気が引く。「エーッ何でできたじゃねえか。」すぐに車で学校に向かう。絶好のスポーツ日和だ。3年生にとっては最後であり気持ちに収まらない。各ホームルームで生徒に納得させてくれと言われても「無理だよ」と思ってしまう。自分も強行遠足にかけける思いを経験しているのに説得にも力が入らなかつた。誰も悪くはない。残念の一言。もう一つの思い出はハレの卒業式。その日朝、校内放送で、百周年記念館の前まで車で乗り込んで駐車した生徒がいると知らされた。どこの不届き者かと鼻で笑っていたところ、

まさかの我がクラスから。これどうなるのだろうかともそぞろのうちに式が終了した。何故このタイミングでこの事態を引き起こしたのかを本人に問うと、ある事柄を巡り、私の不用意な発言によつて不信感を持ち、その思いを最後の日に私に示したかった、ということであった。深く深く自分の軽率さを反省するとともに、このことはそれ以降の教員生活を通して大きな教訓となるものになった。

最後になるが、今回執筆依頼を頂き頭を抱えたが。書き始めると一気に30数年前にタイムスリップし、楽しく書き上げることができた。私にとつてよほど忘れがたい良き時代だったのだろう。同時にまた、知恵も経験もない私の心無い言動で、傷ついた生徒がいたかもしれないと今更ながらに恐ろしい気持ちにもなるが、自己弁護するならば、その時その時は最善の手を尽くしたという事で諦めてご理解願いたい。今後の甲府一高の更なる発展と同窓の皆様の益々のご健勝とご活躍を祈念しております。



Chi va piano va sano e va lontano.

ゆつくり行く者が

着実に遠くまで行き着く

二組担任
佐々木

宏夫 先生

2023年3月、平成3年卒業の諸君が開催した学年同窓会に招待され、懐かしい皆さんと再会することができました。かつての教え子たちが、現在では、それぞれの仕事や生活の中で活躍しておられることが感じられ、とても頼もしく、嬉しく思いました。僕がこの卒業生たちと出会ったのは、一高に赴任して3年目。僕が30代半ばの頃ですから、もう30有余年前のこと。素晴らしい才能を持った魅力的な生徒たちばかりでしたので、楽しく学級担任や部活動顧問、教科指導をしたと記憶しています。

をしたり、生徒たちの代表が地位ある大先輩に会いに行き、自分たちの思いを伝えるという行動に出たりするので。母校の施設を大切に思い、力を合わせてそれを存続させようとする姿に感銘を受けました。その場面を観た時、かつて、台風のために強行遠足が中止になるという説明を受ける全校集会で、一高生たちが、伝統行事参画の意義と行事への愛着を真剣に考え、若いエネルギーを熱くぶつけていた姿を思い浮かべました。確かに、台風のためにコースに落石や土砂崩れなどがあり、生徒諸君の事故を懸念しての決定ではありましたが、生徒諸君や教職員たちの強行遠足を大切に思う強い意志が、「中止ではなく延期して実施を」という対案を生み、その年には間に合いませんでしたが、翌年からは、職員会議で強行遠足案を検討する際には、必ず延期実施案まできちんと検討されるようになりました。生徒諸君の思いが新しい歴史をつくったと

言えるのではないのでしょうか。このような、情熱的で、真摯な一高精神は、きっと、現在の諸君の生活や仕事の場面に生かされているのだと思います。

話は変わります。2023年の記録として残しておかなければならないと思います。暗い話題ですが書くことにします。せっかく新型コロナ禍が終焉に向かいつつあったのに、突然、国際的な武力衝突と世界の分断のニュースが日々の新聞紙面を賑わす一年になってしまいました。ウクライナやガザ地区の悲惨な状況などを耳にする度に哀しい気持ちになります。やがて（願わくば近いうちに）、国家や人種、思想の違いなどを越えた、正しい、大きな世界的潮流が生まれ、争いを治め、世界が平和な営みが続ける方向に向かうようになって欲しいと願ってやみません。一高の大先輩である故石橋湛山氏のような平和主義の政治家・思想家が、世界中に輩出すればよいのですが…。

Chi va piano va sano e va lontano. (キ ヴァ ピアノ ヴァ サーノ エ ヴァ ロンターノ) はイタリアの格言で、意味は表題のとおりです。イタリアでは、例えば、勉強で苦労している子に、親や先生がこの格言を使って励ます光景がよく見られるそうです。イソップの寓話「うさぎとカメ」を連想させる格言でもあります。イソップ（古代ギリシャ語ではアイソップス）は、古代ギリシャの寓話作家です。彼の寓話が古代ローマに伝わり、現代イタリアにまで伝わっていることは十分にあり得る話です。ともあれ、諸君の真摯な日々の努力に負けないよう、僕も、この格言の心を以て、色々なことに興味を持ち、視野を広げるような生活を続けたいと思っています。

かつての生徒諸君と同僚の先生方のご健勝と益々のご活躍を祈念申し上げます。



強行遠足の思い出

三組担任
橘田 多喜夫 先生

創立一四四周年同窓会総会開催、誠におめでとうございます。平成三年卒業の幹事の皆さんご苦勞様です。

早いもので、私は定年退職後、九年が過ぎました。現在、退職後に勤めた仕事も終わってフリーになりましたが、高齢の母の通院・買い物と、週末は東京から来る五歳と三歳の孫の遊び相手とを繰り返しています。

私が皆さんと出会ったのは、母校甲府一高に勤めて三年目でした。

皆さんが三年生の時のあるクラスの数学の授業で、「ガウス記号」の応用として「ゼラーの公式」というのを紹介しました。これは曜日を計算で出せる式です。この式を紹介すると、多くの生徒は自分の誕生日は何曜日だったのかを知りたがりま

す。そのクラスでも大勢が誕生日を計算していました。ある女子生徒の会話が聞こえました。「確か私の生まれた日は強行遠足の日で、親戚の

一高の子が疲れて帰ってきた日だったと、母が言っていた。」何とその日は高校三年生の私が初めて小諸まで行くことができ、足を引きずりながら帰ってきた正にその日でした。睡眠魔と戦いながら痛い足で帰路に向かい、小淵沢駅では乗り換えの階段を

はうように上った当時の記憶がよみがえってきました。そして、部活動のハンドボールや受験勉強に取り組んでいた私の高校三年生、そのころ生まれたのが皆さんだったのかと感慨深いものがありました。

そして、強行遠足といえば皆さんの強行遠足には苦い思い出があります。皆さんの三年生の強行遠足は中止になりました。私は運搬係として、早朝からトラックを運転して各検印所に物品を運んでいました。すると清里まで来た時、強行遠足は中止になったので帰校するようにとの連絡を受けました。「えっ中止？延期でなくて？」一瞬、思いました。帰ると全校集会で中止の説明がありました。終わって各教室へ戻り、ホームルームです。それが私にとって地獄の始まりでした。特に女子は不満げであり、ある女子生徒は「実施要項には雨天順延とあります。どうして順延でなくて中止なんですか？」厳しい口調です。そして生徒が次々と抗議の言葉をあびせてきます。私も同じ気持ちでしたが「昨年とコースも一部変更になり、途中には道路に大きな石もあった。台風も来るし安全を考えてのこと」と弁解するのが精一杯でした。完全にクラスの生徒全員の信頼を失ったと感じました。

夜には一部の男子が走り出すという騒動もありました。甲府一高強行遠足中止の話題はしばらく新聞紙上を賑わせ、多くの人が高い関心を持っていることを知って、この行事の意義を改めて考えさせられました。なお、次年度からは実施要項も変更になり、雨天ですぐ中止ということとは

なくなりました。さて、今皆さんは、地域で、職場で、責任ある立場で活躍中のことと思います。

こんな言葉があります。「伝統は、卒業してから創るもの」

伝統とは、皆さんが在学中、部活動や学業に努力した結果として、長い年月を経て学校が評価され、形作られるものです。しかしそれだけではないのです。甲府一高を卒業した皆さんが、社会の様々な分野で活躍することによって注目され、それによって母校が評価されるという面が多分にあります。卒業生がどのような活躍をするかによって学校の伝統が創られるわけです。

皆さんの社会での活躍は、まず第一に自分のため、そして甲府一高のためでもあるのです。皆さんが今後、健康でますます発展し、大いに活躍されることを祈っております。



わが懐かしの一高

四組担任
高瀬 孝人 先生

「第144周年甲府中学・甲府一高同窓会」が盛大に開催されますことを心よりお祝い申し上げます。通算14年間、母校に奉職し、退職してから早15年余の月日が流れました。最近、本校の動静にも疎くなり、時折、新聞やテレビで、また勤務校の県立大の新入生を通じて、情報に触れる程度ですが、現役生たちの諸般にわたる活躍や強行遠足での頑張りを聞くにつけ、懐かしさ一入です。「一高魂」が脈々と今に受け継がれていることを嬉しく、誇らしく感じています。

私が本校に入学したのは、昭和39年、今から60年前のことです。ちょうど東京オリンピックが開催された年に当り、1年生は貸し切りバスに乗り込んで、代々木のサッカー競技場へ応援に出かけたことを思い出します。結果は敗退でしたが、未だメジャーではなかったサッカーの醍醐味を知り、国を挙げての熱狂と絶叫

のスタンド風景が忘れられません。又、所属していた「語学部」で仲間たちと熱心に活動した日々も懐かしい思い出です。文化祭には今の百周年記念館の場所にあった講堂で、恒例の英語劇を上演したことを昨日のように覚えています。私は『レ・ミゼラブル』の司祭を演じ、衣装を近くのカトリック教会に借りに行ったことは忘れ難い経験です。長い英語のセリフを何とかつかえもせず語り終えた達成感と安堵感は格別であり、これを機に演劇一般への興味は募り、大学でも英語劇に夢中で取り組みました。しかし、何と言っても、最大の思い出は、「強行遠足」です。甲府から小諸までの夜通しの行脚は何にも替え難い心の宝です。真っ暗な山道を懐中電灯の明かりを頼りに突き進む時の心細さや克己心は正に「鍛錬道」の極み、また道中の仲間との励まし合いや友情の有難みも骨身に沁みるものでした。中継所での

心温まるもてなしや沿道の方々の応援も励みになりました。まともに歩けないほどの関節や筋肉の痛みやマメだらけの足裏の疼きは正に「青春の勲章」でした。これに併せて思い出深いのは、事前に実施された「一万メートル競歩」です。体育の時間を使って、「プレ強行遠足」を懸命に踏破した感激も懐かしく甦ってきます。

その当時と比べて、現在は校舎も様変わりし、随分モダンな雰囲気を感じていますが、当時は正に伝統校を彷彿させる厳めしく重厚な佇まいの造りで、校舎のあちこちに大理石が使われていました。一年生の校舎は、今のテニスコートの辺りにあったバラック校舎で、床はきしみ、油を敷いて、昔の兵舎の趣がありました。先生方も個性ゆたかで、名物教師が多くおられ、仲間とあだ名をつけては面白がったものでした。

本校は、徽典館に連なる伝統精神

に支えられ、自由で進取的な校風から多くの校是や校訓を承継してきました。クラーク博士の「Boys be ambitious」や「Be gentlemen」をはじめ、「日に新たに」「質実剛健」、さらには体育館の正面に掲げられた「Mens sana in corpore sano（健全なる精神は健全なる身体に宿る）」など、先人たちの英知と教訓が脈々と息づいています。開学以来、幾多の賢哲や著名人を輩出してきましたが、白眉は総理大臣の石橋湛山です。その遠大な理想と思想は少なからず本校の歴史と伝統に根づいたものと信じます。混迷を極める現代の世界潮流にあつて、湛山の指し示した国家像や世界像には、課題解決に向けた多くの示唆やヒントが潜んでいると確信します。「一高魂」が永遠に承継され、発展してゆくことを念じております。



山梨を離れて 気がついた山の魅力

六組担任
松本 はるか 先生

平成3年卒業生の皆さま。ご無沙汰いたしました。お詫言ひ申し上げます。

皆さまが同窓会総会幹事をなさるとのこと、年月の経過を感じないではいられませんが、

皆さまの卒業と共に教職を離れました。学年担当に所属していたころを思い出すと、わが身の未熟さに恥じるばかりです。そんな私を「先生」と呼んでくださった皆さまに、感謝のうえに感謝です。ありがとうございます。

山梨を離れて気がついた山梨の魅力がいくつもあります。そのうちの一番が山の魅力です。山梨に生まれ育ち、毎日山々をながめて暮らしながら、山に興味をもつこともなく過ごしてしまいました。正確に認識していたのは富士山くらいです（すみません）：山梨に来て、山梨出身という登山愛好家の人からうらやましがられると聞き、新鮮な驚きでした。というわけで、登山を趣味としている人に教えていただいた山梨の山をまとめました。すでにご存じのことも多いと思いますが、小さな恩返しとさせていただきます。実際に登山なさる場合は、情報をご確認ください。皆さまのご健康と、おひとりおひとりらしい活躍を祈っています。

1. はじめに

四方を山に囲まれた山梨県は、日本でも有数の山岳県で、魅力的な山がたくさんあります。日本百名山が12座もあり、長野県に次いで多く、さらに標高1,333位の山が揃っています（富士山、北岳、間ノ岳）。日本全国、さらには世界中から大勢の登山客が訪れます。ま

た、一般公募と市町村推薦をもとに、山梨県によって1997年に選出された山梨百名山もあります。以下、山梨県の魅力的な山のいくつかをご紹介します。なお、ハイキングとして気軽に登れる山もあれば、専門的知識を持ち重装備が必要な険しい山もあり、事前の検討と準備が重要になります。字数の都合により、南アルプス山系（1）～（5）以外は説明を略し、名称のみの紹介となります。

2. 山梨県の山

山梨県の山々は、大まかには、南側の富士・御坂山系、西側の南アルプス山系、北側の八ヶ岳・奥秩父山系、東側の大菩薩・道志山系に分けられます。

2・1 富士・御坂山系

- （1）富士山（3776m、日本百名山）
- （2）三ツ峠山（1785m、日本二百名山）
- （3）毛無山（1964m、日本二百名山）
- （4）2・2南アルプス山系

（1）甲斐駒ヶ岳（2967m、日本百名山）

堂々とした風格があり、南アルプスを代表する山の一つです。日本百名山を選定した深田久弥に、「もし日本の十名山を選べと言われたとしても、私はこの山を選ばないだろう」と言わしめた名峰です。頂上部は花崗岩のため雪で覆われたかのように白い。迫力のある険峻な地形で、もともと修験道の山として信仰の対象であり、山頂東南には「摩利支天」と呼ばれる見事な岩峰もあります。相対的に登り易い北沢峠からの登山客が多いですが、一方、反対の葎崎側の黒戸尾根は登山口から標高2200mもあり日本三大急登の一つです。

（2）仙丈ヶ岳（3033m、日本百名山、花の百名山）

3000mを超える高峰でありながら、優美でなだらかな山容から「南アルプスの女王」とも称されます。また各所に見事なお花畑が広がり、花の百名山としても有名です。頂上部の藪沢カールは日本三大カールの一つで、7月中旬頃まで残雪があります。仙丈ヶ岳などの南アルプスの高峰では、運が良ければライチョウに出会えます。

（3）北岳（3193m、日本百名山）

北岳は日本第2の高峰で、間ノ岳、農鳥岳を合わせた白峰三山（しらねさんざん）の主峰です。北岳一帯はかつて白峰、白根、白嶺などと呼ばれ、古今和歌集にも白嶺の名で登場しています。高峰では珍しく県境ではなく、山梨県一県の中にそびえています。山頂は見晴らしが良く、東斜面の北岳バットレスは標高600mの大岩壁で見る者を圧倒します。高山植物の宝庫でもあります。北岳南側の北岳山荘は、黒川紀章氏設計のもと山梨県が建設し、南アルプス市が運営しており、夏山シーズン中は昭和大学医学部の診療所が開設されます。

（4）間ノ岳（3190m、日本百名山）

北アルプスの奥穂高岳とともに日本で3番目に高い山です。巨大な山容を誇り、山頂は広々としていて、南アルプスの峰々を一望できる大パノラマが広がります。独立峰ではないため知名度はいま一つですが、広河原を起点に北岳、間ノ岳、農鳥岳の白峰三山を縦走し奈良田に降りる2泊3日の登山者も多います。

（5）鳳凰山（2840m、日本百名山）

観音ヶ岳（最高峰）、地蔵ヶ岳、薬師ヶ岳の3つのピークを合わせて鳳凰三山と呼ばれています。山頂部や尾根筋は花崗岩が露出し、その白さとハイマツの緑のコントラストの美しさから、「白砂青松の山」と言われています。甲府市内からも良く見えます。南の夜叉神峠から鳳凰三山へと続く稜線を歩く縦走路は、南アルプス縦走の入門コースとして人気が高いです。地蔵ヶ岳山頂の岩塔はオベリスクと呼ばれ、山のシンボルとなっています。

（6）身延山（1153m）

2・3 八ヶ岳・奥秩父山系

- （1）赤岳（2899m、日本百名山）
- （2）金峰山（2599m、日本百名山、花の百名山）
- （3）瑞牆山（2230m、日本百名山）
- （4）甲武信ヶ岳（2475m、日本百名山）
- （5）乾徳山（2031m、日本二百名山）
- （6）雲取山（2017m、日本百名山、花の百名山）

2・4 大菩薩・道志山系

- （1）大菩薩嶺・大菩薩峠（2057m、日本百名山、花の百名山）
- （2）雁ヶ腹摺山（1874m）
- （3）牛久保ヶ腹摺山（1990m）
- （4）扇山（1138m）
- （5）九鬼山（970m）

3. 参考書籍・資料

・深田久弥著『日本百名山』、新潮文庫・田中澄江著『花の百名山』、『新花の百名山』、文春文庫・鳥瞰図で楽しむ日本百名山、成美堂出版・関東の山あるき100選、昭文社・山梨県ホームページ 山梨百名山ピッチマップ、山梨山のグレーディング・富士の国やまなし観光ネット山梨百名山・YAMAP/ヤマップのWebサイト山梨百名山



思い出すことなど (幻の強行遠足)

七組担任
保坂 すみ子 先生

一年間の内地留学で久々の大学生
活を過ごし、甲府第一高校に戻り君
たち3年7組の担任となる。高校生
としては充分賞禄のある生徒を前に
新米教員のようにおどおどしながら
緊張して君たちの前に立つたときを
つい先日のことのように今思い出して
いる。特別の思いがよぎるのはやは
り思いがけず強行遠足が中止にな
ったからである。

あの日の朝はかなり強い雨が降っ
ていた。どうなるのだろうかと心配
になりながら学校へ行くともうすで
に関係者の会議があつたらしく強行
遠足は中止になったと告げられた。
職員会議を開くまでもなくもう中止
という決定がなされてしまつていた
のだ。腑に落ちない気がしたが、そ
ういうものなのか納得してしまう
もう一人の自分もいた。初秋のその
頃は台風の襲来もあるのだが、その
日の雨はもうかなり小降りになつて
いた。

その夜、クラスの女生徒の一人から
電話があつた。「今日の強行遠足中
止のこと納得いかないんです」。彼
女は他の生徒たちも雨天延期とプリ
ントにも書いてあるのに何故中止な
のかと不満をぶちまけていると何回
もくり返した。私はまた明日学校で
と電話をきつたが、生徒の気持ちを
置き去りにして彼らの強行遠足にか
ける熱い気持ちに思いが全く至らな
かったことに気付かされた。大人だ
けでの判断で勝手に結論をだしてし
まい、そのことに異を唱えなかった
自分自身に対しても情けなく、さら
に生徒に対してどうしたら良いのか
さえ見当もつかなかった。

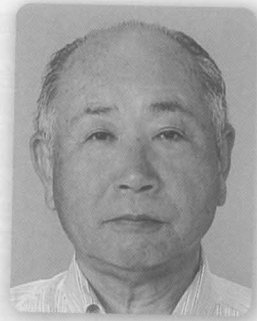
翌日は朝から陽光がまぶしく空
は晴れ渡つた。昨日父兄が付き添つ
て小諸まで歩ききつた生徒が写真
と共に新聞の記事になつていて、
学校では大騒ぎであつた。それか
らが大変であつた。生徒たちがそ
れぞれ小諸を目指して出発してい

るというのであつた。先生たちは
生徒を呼び戻すために出かけて
いった。私も行かなければとおもつ
ていたとき、私は聞いた。「保坂さ
んのクラスの生徒は担任に迷惑を
かけてはと説得を聞き入れて引き
返したよ」と。私はただただ嬉し
かつた。彼らが私のことを思つて
くれたことが。まだお互い知り合つ
て日も浅いの。それからの日々、
体育館で全校集会が開かれたり、
その様子が連日地方新聞の記事に
なり投書欄にも様々な意見が掲載
された。クラスのホームルームで
は各自が意見を述べ、お互いの考
えをぶつつけあつた。私たち教員
は事なかれ主義で日常を過ごして
いることを生徒の鋭い感性で指摘
され、そういう私たち大人の狡さ
が白日の下に晒された。生徒にとつ
てはもう二度と経験できない貴重
な強行遠足が理不尽にも奪い取ら
れてしまったが、私にとつてはも

う一度原点に立ち返つて教員とし
ての自らの姿勢を考えさせられる
またとない機会となる出来事と
なつた。教員としての視点を広げ
ること、生徒の立場に立つて考え
ること、そして何より勇気を持つ
て発言すること。たとえどんな強
い権力に対しても。

その後私たちのクラス全員、幻
の強行遠足を実施した。想像の翼
を思う存分広げ、それぞれがそれ
ぞれの望みを叶えクラス文集とし
て結実させた。アンケートなども
実施したりして生徒会誌に今回の
まとめを記録として載せた。伝統
ある一高の強行遠足はいったん断
ち切られたが、このことを通して
私たちはとても大切な何かを学ん
だと思つている。

30余年を経た今も古ぼけたこの
文集を見るたびに君たちと過ごし
たあの得ることの多かつた一年間
を生き生きと思い出す。



百年の時 貫く棒の如きもの

甲府中学・甲府一高同窓会

顧問 大西 勉
(昭和34年卒)

1924(大正13)年にはじまった母校甲府一高の強行遠足は、2024(令和6)年に96回目を迎える。途中5回の中止を含めて100年の営々たる歩みにおのずから肅然たる感慨をもつとともに、この行事にかかわったすべての皆様にあらためて満腔の敬意と万謝の念を抱くものである。このはるかな歩みは単純に1年を100回重ねたものではない。1924年から2024年は世界と日本にとって、そして母校にとっても激動と転換のたいへんな時期であった。

100年の間にどれほどの困難・課題があったことだろう。戦時下の行事運営、敗戦、戦後の占領行政、教育制度の改革・改編、生活物資(とくに食料)不足、不景気と社会不安、インフラの欠如・不整備、道路・交通事情の激変(車の社会の到来)、自然災害、天候急変への対応、生徒のマナー教育、安全・健康対策、コースの見直し・変更、関係諸機関との折衝、マスメディアへの対応、世論への配慮等々。

さまざまな困難・課題を一つ一つ忍耐強く解決・克服し、この行事を存続させることができた根本的な要因は、生徒を愛し、人間としてしっかり育てる甲府中学・甲府一高の教育力とこれを理解し、支持し、誇りとして受け止

める生徒の力である。同時に、この行事の運営を支え、助けていただいた外部の皆様からの大きなお力添えを忘れることはできない。保護者・同窓会の全面的支援、検印所施設・物品を無償で提供してくださる個人や自治体、好意的に便宜を図ってくださる病院・警察などの諸機関、奉仕で勤務してくださる医師・看護師、沿道の皆様など。どんなに感謝してもし尽くせない有り難さである。中でも同窓生の協力・貢献はこの行事の運営に欠かすことのできない基礎要件となっている。最初は少数の有志であったが次第に協力者が増え、学年単位の協力体制となり、ここ10年ほどは佐久穂から小諸まで6か所の検印所を卒業時の学年単位で整然と組織的に協力し、協力者の総数は200名をはるかに超えている。

そうしたさまざまなご理解、ご協力をいただけたのも学校のこの行事に取り組む真剣さへの敬意、共感とこれに応じて目標に向かって力を振りしぼり黙々と歩き続ける生徒への慈愛と称賛の故である。

1924(大正13)年、文部省は11月3日を全国体育デーとして全国の中学校に「何か体育的行事を実施せよ」との通達を発した。時の校長江口俊博先生が考えたのは、一部選手や運動能力強者のスポーツ体育ではなく全員だ

れにでもできる運動すなわち「歩く」力をつける行事を提唱、これが強行遠足の淵源となる。この構想の契機となったのは、前年1923（大正12）年の関東大震災であった。江口校長先生の言によれば震災時「かねて電車か何かに乗り慣れて居た東京人士が突然足を奪われてどの位迷惑したのか聞かされた私は歩くことの必要をひとしお痛感したのです。」大災害のような非常時、道路、交通、通信が途絶するなど文明の利便性が一挙に奪われた時頼ることができるのは強い意志としっかりとした手足である。この力をつけた。との願いからである。

2024年正月の能登地震で道路が崩壊し、車が通れなくなった地区を、行政担当者、医療従事者、自衛隊員、ボランティアの皆さんが救援物資や医薬品をもって避難所に向かって黙々と歩く姿をテレビ映像で見て、1959（昭和34）年の伊勢湾台風があった年の私的体験を思い出した。この年は台風の被害が甚大で強行遠足は中止となった。同年に卒業した私は東京に下宿していたが、11月に伯父の葬儀で甲府に戻る必要があった。しかし台風の被害で中央線の梁川から大月間が不通となり、大月以遠に行く必要のある乗客は徒歩で大月まで行かねばならなかった。大半の乗客は東京へ引き返したが、数十人の乗客は徒歩で大月に向かった。徒歩組の皆さんは急な徒歩旅行で呻吟していたが、私はほとんど支障を感じることなく大月まで坦々と歩くことができた。強行遠足が助けてくれたと気づいたのはだいぶ後年になってからである。

母校に保管されている強行遠足に関する膨大な記録から、母校がこの行事に取り組む気迫がせつせつと伝わってくる。前年度の反省・総括、事前の調査から実施後の検証、次年度への継承まで、緻密・周到な手順は実に見事で、

同窓会役員は関係資料が一種の文化財だと語っている。

この行事がめざす大いなる志は、決して変えることなく、行事の目的達成のために既往の慣行・前例にとらわれることなく、変えるべきは勇断して変えてきたことが、存続・継続の秘訣であったように思う。言わずもがなであるが、慣れと慢心は大敵である。「蟻の穴から堤は崩れる」という言葉もある。「蟻の這い出る隙もない鉄壁の守りが、この行事を護ってきた。

この行事は世人にもメディアにも注目されてひいき目に「日本一」といわれるが、教職員、同窓生、保護者、さまざまな協力者の一致結束した真剣な取り組みこそ、掛け値なく「日本一」であろう。



三枝茂雄 画

『強行遠足70回記念誌「歩け、心のかぎり」1924-1996』より

『あおぞら共和国』を支援する

甲府一高あおぞら会

あおぞら共和国のあらましと

甲府一高あおぞら会について



医師
おぐち こども
クリニック 院長
小口 弘毅
(昭和45年卒)

今から10年以上前の2013年、甲府一高東京同窓会の女性ネットワークである一紅会(いちこうかい)主催、春の講演会で私は難病の子どものこと、あおぞら共和国についてお話をいただきました。そして多くの参加者に、あおぞら共和国に共感していただき、2015年支援団体である「甲府一高あおぞら会」が結成されました。

さて、みなさんは北杜市白州にあるレスパイト施設「あおぞら共和国」をご存知でしょうか?レスパイトとは「小休止」「息抜き」「休息」を意味し、「レスパイト施設」は病気の

人を支える家族が、一時介護から離れリフレッシュする役割を担います。難病の子どもを持つ家庭は、一般の宿泊施設に泊まれないことが多く、飲食店でも人目が気になることがあり、家族旅行の宿泊先に不自由しています。そんな全国の難病の子どもを持つ親の想いを受け、気兼ねなく泊まれるコテージ「あおぞら共和国」が2011年から数年の年月を経てつくられました。多くの寄付が集まり、建設面ではほぼ完成しています。その運営母体は特定NPO法人難病のこども支援全国ネットワーク(以下、難病ネットと略)。明日への希望を紡ぐ為に、難病の子どもを持つ家族と小児科医が中心となり1998年に結成されました。小児医療が進んだ現在も治療困難な難病に指定されている病気は700種、難病を持つ子どもの数は全国で25万人を超えます。少子化に

もかわらず、小児医療の進歩により昔なら救命が困難であった重症児が生存し、医療的なケアが必要な子供たちが増えていきます。成人と違い、重い病気あるいは障害があっても、こどもは日々育っていく生命体です。病院と自宅の往復という単調な生活では、心も身体も育ちません。美しい里山の中に佇むあおぞら共和国で過ごし、家族の思い出を紡ぐ時間は貴重で、この地で生命力を吹き込まれるのです。

難病ネット主催でJR日野春駅から白州の「あおぞら共和国」までの12kmを歩くチャリティウォークが毎年開催されてきました。強行遠足で歩くことの楽しさを知っている甲府一高同窓生たちが参加し、あおぞら共和国に魅せられ、さらに多くの賛同者が生まれました。

バギーに乗ったお子さんが一高同窓生と歩き、その両親には手ぶらで自由に歩いていただき、涙ながらに喜んでいただきました。

1982年、世界で初めて英国オックスフォードに子どもホスピス「ヘレンハウス」が設立されました。その経緯について書かれた書籍を、あおぞら共和国支援活動の一環として2018年に翻訳出版しました。当時2歳半の脳腫瘍を患ったヘレンさんの在宅介護を元に子どもホスピスにまで発展した物語です。創始者

あおぞら共和国全景

のヘレンさんのご両親が翻訳出版を機に来日され、あおぞら共和国に滞在し、次のような言葉を残しました。「この美しいふるさとを訪れる子どもと家族の平安を祈ります。ここは自然豊かな地で、信じられないほど平穏です。このレスパイト村に満ちている美と芸術は滞在する人々の魂

を慰めるでしょう。自然の素材から生まれた日本家屋はすでに自然と一体化しています。心地よいコテージで快適な眠りから目覚めて、朝日に照らされた木々の美しい紅葉に目を奪われ本当に幸せな気持ちになりました。」最愛のヘレンさんを長い間介護したご両親はあおぞら共和国の

素晴らしさに打たれたのです。あおぞら共和国の意義について2冊の本、ヘレンハウス物語とあおぞら共和国物語（甲府一高あおぞら会HPにe-bookとして掲載）をどうかお読みください。そしてこれから多くの一高同窓生に見守られることを望みます。

甲府一高あおぞら会



会長
露木 和雄
(昭和45年卒)

も支援全国ネットワークによる「みんなのふるさと夢プロジェクト」へのあおぞら会員や支援者による支援金累計額は1532万7029円（2022年度末）となりました。

コロナ禍により3年間開催が中止となったあおぞら会の総会・交流会を昨年11月にあおぞら共和国において開催したところ、県外からの参加者を含む60名を超える会員が参加し盛大に終えることが出来ました。

「甲府一高あおぞら会」は2015年に発足しました。設立目的は、難病・障害を持つ子どもやその家族のためのレスパイト施設である北杜市白州町あおぞら共和国（詳細別掲）の建国・運営への支援活動と会員相互の親睦です。設立当初は一高卒業生のみ参加し会員170名でした。以降、一般の方の入会もあり昨年末には453名の会員（内128名は一高卒業生ではない）となっています。

発足以来、NPO法人難病のこど

り世界中で自然災害やテロ、戦争などにより無辜の人々が救いを必要としている今、一高に関係する方々のみならず、同校にルーツを持たない方々と志をひとつにしたあおぞら会の活動は、一高の校是である **Ambitious・Be Gentle** 精神そのものだと思います。単なる自己満足や世俗的な名声・栄

達を求めるという動機からではなく、現在困難を抱えている人を想い、その人のために、今自分が出来る事は何かを考えそれを実践する。このことは、今の時代にこそ大切であると思います。

今後とも甲府一高あおぞら会へのご支援よろしく願います。あなたのご加入を心からお待ちしています。



第2回あおぞら共和国 感謝の集い
(2023年11月開催)
<https://ymkp.net/aozora/>

利用方法

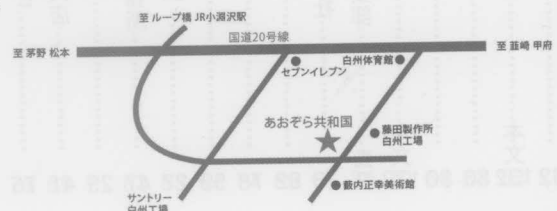
みなさまのお知り合いで、あおぞら共和国を利用したい方はいらっしゃいませんか？『車椅子利用者だけど、のんびり家族で旅行したい』とか、『動き回る子なので一般のホテルは利用しにくい』とか…。あおぞら共和国ならその願いが叶います。あおぞら共和国は、みんなの別荘です。別荘、なだけに、自炊・パジャマなど持参と制限もありますが、気兼ねなくロジ滞在が楽しめます。利用できる方は、①難病や障がいのある子どもとその家族②その関係者や支援者③難病ネット会員（正会員・賛助会員・購読会員）です。詳しくは、運営している、難病のこども支援全国ネットワークの事務所（所在地：東京都文京区）にお尋ねください。

あおぞら共和国の所在地：山梨県北杜市白州町鳥原2913-134

HP：<https://www.aozorakk.com/>

電車でお越しの方：JR中央本線「小淵沢駅」よりタクシーで約10分

自動車でお越しの方：中央自動車道「小淵沢IC」より車で約15分



広告目次

あ

アース・リサーチ(有)	24
(株)R&Z	57
アイエス企画(株)	39
相川保育園	62
(有)相原商事	45
(有)アウテリアあかさわ	51
アウトブラン(株)グランドスラム甲府	35
青柳印刷(株)	72
アカオライフプロジェクト(株)	73
(株)あきでん	69
健寿会あきやま医院	81
秋山建具工業	83
秋山陶器店	63
(医)秋山脳外科	53
CPサロクアアフェイス	66
(有)アクティブ丸井	67
(株)アサヒ総合サービス	72
朝日通り商店街連盟	82
浅利クリニック	81
アシスト平野	67
味魅	64
(株)アダストサービス	84
(株)アドヴォネクスト	75
アポロステーション清里SS	51
(株)天鳥	56
(株)網倉本店	63
(株)アミノ測量	65
(有)雨宮オートボディーサービス	71
雨宮工業(株)	53
(有)アメミヤ塗装店	64

い

アルプス事務機(有)	73
(有)アンリミット・ジャパン	61
飯田鉄工(株)	38
井口工業(株)	32
(有)イシイ石油	71
石川法律事務所	25
石のもちつき(株)	79
石山耳鼻咽喉科クリニック	60
(合)イズマタ	70
(有)和泉愛児園	57
磯部公認会計士税理士事務所	78
イタリアンレストラン&バーるびい	52
(有)いち団	71
(医)一宮温泉病院	60
いち柳ホテル	70
稲積神社	65
井上鋼材(株)	77
(株)いのまた	66
猪又住設サービス	79
今村歯科・矯正歯科クリニック	80
今村耳鼻咽喉科めい・難聴クリニック	82
(有)岩間電気工業	66
(株)インテリアフコー	81
(株)ヴェコ計画設計室	67
(株)ワイザースホーム	82
(株)ウエノ	52
(株)魚宋(魚そう本店)	82
魚政寿司	62
(株)うちだ	84
内田歯科医院	65
内田皮ふ科	61
(株)内田洋行	54
うなぎあげぼの	83
うなぎ割烹石水庭横内	65
(学)永照寺幼稚園	72

お

(株)栄和交通	82
(株)エコ・フカサワ	23
(株)エヌディエス	79
(医)江間ファミリー歯科矯正歯科	67
エルク	22
円崎興業(有)	54
エンゼル動物病院	67
厄除地蔵尊塩澤寺	59
円明寺	12
大泉はなわクリニック	43
(株)オオキ	51
(有)大木自動車	77
大久保内科呼吸器科クリニック	56
大関食品(有)	69
OZ歯科口腔外科クリニック	31
太田工業(株)	73
(株)オーチョンライト・インターナショナル	42
大塚会計事務所	69
オートグラス山梨	82
大原学園甲府校	74
大森歯科医院	65
(株)小笠原商会	77
小川会計事務所	80
小川歯科医院	82
(株)オギノ	2
おぐちこどもクリニック	47
(有)奥野旗店	57
(有)奥義	63
長田組土木(株)	14
(医)長田産婦人科クリニック	54
長田米穀店	70
(株)小澤建築工房	80
(株)尾澤工業	31
小沢耳鼻咽喉科アレルギー科クリニック	65
小澤豊工業所	38

か

(株)オスプリンテイング	76
おそうじや本舗甲府営業所	84
小田切塗装(株)	70
おちあい歯科医院	56
(株)乙黒	57
オリオン活版印刷室	76
(有)甲斐絹屋	74
(有)甲斐地所	84
海沼商事(株)	65
(有)甲斐保険事務所	82
かおるバンケットプロデュース	54
(有)加々美組	62
(有)角市	63
笠井歯科医院	63
梶山クリニック	50
割烹三井	76
金山土建(株)	76
(医)加納岩	6
(株)叶屋	75
CAFE&PASTA KURU	76
(株)カラーボックス中央店	41
Calla lily	29
カワニ建築設計事務所	47
元旦ビューティ工業(株)	27
(株)キーテック	59
季節料理旬	78
生そばきり	82
北口本宮富士浅間神社	73
北の杜カントリー倶楽部	2
(有)キタムラ	132
(株)吉字屋穀店	80
(株)吉字屋履物店	80
(株)きぬや	132
(株)きものあさ川	62
gallery C	64

キユーエット	77
共同電設(株)	62
共同プリント社	71
協和産業(株)	32
(株)ギョクホー堂眼鏡店	69
(有)キング珈琲	64
銀座富士アイス	65
く (株)クオリティファースト	21
(有)貢川鉄工所	68
久喜設計	62
串揚げ深澤亭	73
国代耐火工業所	59
(株)クラシック・コーポレーション	75
クルミハーバルワークス	43
(福)クローバー保育園	22
群芳園	68
け (株)ケイコンサルタント	23
恵信グループ	18
(株)警備サービス輝	76
KHコンストラクション	76
KINFACTORY	36
こ (有)甲州工業	79
甲州地どり市場	78
甲信鋼業(株)	66
(株)合同タクシー	83
河野スポーツ(株)	132
甲府朝日三郵便局	66
甲府一高あおぞら会	60
甲府一高昭和57年卒同窓会「TEAM57」	17
甲府一高昭和58年卒同窓会	13
甲府一高昭和61年卒同窓会	30
甲府一高平成元年卒業生	29
甲府一高昭和63年卒業生むつみ63会	25
NPO法人甲府駅北口まちづくり委員会	78
甲府記念日ホテル	20

(株)甲府キンダイサービス	77
甲府下石田食堂	83
甲府信用金庫	52
(有)甲府スポーツ	63
(学)甲府西幼稚園	70
(医)甲府脳神経外科病院	34
(資)甲府風月堂	46
(医)甲府南ライフケアセンター	1
甲府ミュージアムハウス	65
甲陽建機リース(株)	68
(株)興龍社	50
国際建設(株)	12
五光電工(株)	46
ココ整理	83
(有)小島精肉店	70
コスモ歯科・矯正歯科医院	82
(株)コスモエナジー	49
(福)子育ち・発達の里	56
(株)コニカミルタサプライズ	11
小林歯科医院	62
(株)小林製作所	59
五萬円館	78
(医)小宮山外科医院	69
小山医院	65
コフニ(株)	56
三枝酒店	66
さいとうクリニック	79
境川カントリー倶楽部	表3
(株)坂本建運	64
櫻林腎・内科クリニック	74
(株)ささこん	73
笹本環境オフィス(株)	68
(有)ササモトスタジオ	66
(株)さとしや	71
(株)サドヤ	67

さわ淵	50
サン構造エンジニアリング	76
サンコー電化	63
(株)サンテック	75
山日YBSグループ	10
三友自動車工業(有)	80
サンヨー山梨デンカシステム(株)	70
(株)三和リース	55
C&Pストラテジーコンサルティング(株)	44
(株)ジーベック甲府支店	41
JA共済連山梨	58
JA全農やまなし	58
JA山梨県厚生連	58
JA山梨信連	58
シオジマ歯科医院	66
(学)塩部幼稚園	14
歯科若尾	67
数島カントリー倶楽部	48
数島金属工業(株)	68
(株)数島陸送	65
寿司・割烹 治作鮎	49
(株)システムインナカゴミ	65
至誠堂療院	61
シタックスフードサービス(株)	71
(株)シップス	81
篠原貿易(株)	71
シミズカメラ豆助	47
清水工機(株)	68
(有)シミズ酒販	60
志村薬局	77
シモン	70
(株)ジャパンメディカル	79
ジャルダンアッシュ	63
(有)ジュエリークラフトフカサワ	57
(株)ジュエル・ワタナベ	82

(株)のエム	62
(株)少國民社	21
(株)正直堂	83
(株)浄土の里	83
壽命山 昌福寺	64
(学)城北幼稚園	72
昭和建設(株)	72
昭和建設工業(株)	61
昭和総合警備保障(株)	69
昭和和鉄工	51
昭和42年卒業生一同	83
(株)シヨープル	83
食楽人	71
白須測量調査事務所	69
(株)白根ベニヤ	77
新海司法書士事務所	77
(株)シンゲン	76
人生食堂こばやし	75
(株)伸電工業	84
新藤歯科医院	72
信木工業	61
心理臨床オフィス・ルーエ	81
(株)新和運輸	74
(有)水質メンテナンスアーク	4
(有)スーパースター	67
すが建設	63
杉田小児科医院	55
鮎長	54
鈴木歯科医院	69
鈴木製菓(株)	31
鈴健興業(株)	64
(株)スプリングワイン	35
炭火焼肉野・野	77
スリーエスオート	78

Slowlife	80
せ(学)聖愛幼稚園	77
(株)清興	57
正視堂眼鏡店	75
積水ハウス(株)山梨支店	29
セコム山梨(株)	75
セブンイレブン甲府伊勢ー丁目店	66
(有)千秋舎	81
(株)センティス21	76
(株)仙洞田飯金工業	67
(株)千里水産	70
そ 創建アシスト	55
総合資格学院甲府校	28
(株)双成化建	37
創夢(株)	68
た 第一観光(株)	75
(株)大栄測量	77
太冠酒造(株)	83
(株)大成電気	36
(株)ダイタ	33
(有)ダイナ	75
(株)大日マクリーン	77
大丸商事(株)	15
(株)太陽設計	73
大洋薬品(株)	73
大和リース(株)山梨営業所	54
(株)高添工業所	72
(有)高野牛肉店	45
(株)高野塗装店	24
滝口建設(株)	66
滝田建材(株)	59
(医)武井医院	48
(医)武川会	61
(株)武田広告社	42
武田神社	42
竹野総合事務所	63
(株)たけまる	68
(株)ダスラップサービス	68
(医)アウゲン 田辺眼科	49
(株)タンザワ	表 4
ち チェリー美容室	68
チエルト	81
千野建材(株)	82
中央電気(株)	38
(株)中央ビルサービス	50
中央ペンヤ(株)	66
つ (株)土屋工業	48
つつじヶ崎温泉	38
露木耳鼻咽喉科医院	80
鶴田電気(株)	68
ツルヤ化成工業(株)	75
て てつぱん秀	80
(株)テレビ山梨	71
(株)テノヨ武田	53
と (有)トウシエ(PECE陣場通り)	60
(株)東栄	71
東京館	64
東京地方税理士会甲府支部 日新会	7・8
(有)銅信	49
東八商事(有)	72
(株)東和	52
常盤ホテル	39
(株)戸栗鉄構電設	73
(有)都市営繕	64
(有)戸島造園興業	70
(株)トミオカテニス	68
富竹歯科医院	69
(株)Dream map	13
(有)トリオ印刷	69
どんぐり	63
な (株)内外	55
内藤歯科医院	74
(株)内藤ハウス	15
(有)中川看板店	74
中澤税理士事務所	35
(医)なかざわ歯科医院	65
中沢歯科医院	80
(有)中沢実業	47
(株)中嶋文夫+O・Y・A設計事務所	56
(株)ナカダ	71
中楯電気(株)	44
(株)中村	69
なかむら内科クリニック	76
なかむら保育園	72
(株)中家製作所	47
(株)なじみや酒販	56
七沢歯科医院	67
(株)七保	18
南信工営(株)	36
に 201ゴルフ会(S56〜H3卒)	44
西東京観光バス(株)	81
(株)西日本ギリオン	表 3
西山塗装(株)	31
(株)日医工山梨グループ	40
(有)日眼甲府薬局	74
(株)日建	77
日章(株)	79
福日新会	66
(株)日設工業	65
日東物産(株)	79
(医)二宮眼科医院	73
(株)日本ネットワークサービス	19
日本連合警備(株)	79
(株)ニュー平和	51
人形のあめみや	26
ぬ (株)沼田鉄筋	82
ね ネットトヨタ甲斐(株)	5
ネットトヨタ山梨(株)	49
の 農協日新会(JAグループ)	58
のざわ耳鼻咽喉科クリニック	53
(有)野中製材所	49
野村養蜂場	83
萩原会計事務所	74
(株)ハギ・ボー	33
(株)はくばく	37
畑歯科医院	74
(株)羽中田自動車工業	60
花形歯科医院	63
花水木	84
ばば歯科医院	50
(株)馬場設計	28
(有)早川ベーカー	72
疾測量(株)	66
(株)早野組	3
原歯科医院	82
原整形外科医院	81
ひ (有)ピアジュエリー	79
(株)ビーイングコーポレーション	39
ひかり珈琲店	84
樋口歯科医院	69
(有)樋口土建	79
(株)hinako	80
ひはらクリニック	53
(株)ひまわりサポート	54
ヒューコムエンジニアリング(株)	20
ビューティーサロン松木	64
廣瀬醫院	41
(有)ヒロ野草研究所鍼灸院	74
ふ (株)ファルベ	71
(有)フィッシュランドイシハラ	80

武田神社 42
 (株)フォネット 30
 富岳通運(株) 40
 富国生命保険(相) 83
 ふじいけ 84
 (株)富士環境 34
 富士急行(株) 46
 (株)フジコー 78
 (株)富士測量 63
 (有)藤原建設 51
 (医)富士見歯科医院 48
 (株)京呉服ふじや 49
 富士冷暖(株) 52
 双葉クリニック 81
 フラワーデザイン ソンブレユ 45
 合同会社L'OO 45
 フルーツパーク富士屋ホテル 84
 古屋電機(株) 78
 (株)ブレイン 79
 (株)ブレメン 72
 (株)プログレス 44
 (株)プロトコーポレーション 84
 平成元年卒甲府「高アーチェリー部」同 79
 (株)ベストアドバイス 81
 (株)ベルキャスト 43
 (株)保険ドリーム 74
 保坂歯科医院 69
 保坂歯科医院 78
 保坂メディカルクリニック 67
 細田眼科医院 53
 ホテル平安 32
 ポニアロハフラスタジオ 70
 (税)ポライト田中会計 40
 ホンダカーズ峡西南アルプス店 52
 本坊酒造マルスワイナリー 59
 まマコト医科精機(株) 37

(株)マツムラ酒販 81
 (株)マルアイ産機 39
 (有)マルイチ中沢 74
 (株)マルエスフリージングジャンクション 61
 丸十山梨製パン(株) 64
 (株)マルデュー 67
 (株)マルモ 76
 (有)ミートタカハシ 73
 (有)美郷 70
 御崎神社 76
 (医)三井クリニック 55
 三井歯科医院 67
 (株)三井住友銀行 43
 三塚歯科医院 67
 (医)薬袋レディースクリニック 78
 (株)湊興グループ(みなよグループ) 26
 クリーニングミハシ 84
 三井建設(株) 79
 (医)向山クリニック 50
 向山塗料(株) 64
 (株)ムトウ山梨 68
 村松歯科医院 34
 (株)メイキョー 55
 (株)望月組土木 55
 (医)望月耳鼻咽喉科 75
 モテギ(株) 42
 やきとり千成 83
 厄除地蔵尊大祭奉賛会 59
 八雲製菓(株) 40
 (医)矢崎胃腸外科 46
 (医)矢崎耳鼻咽喉科医院 74
 弥助館 57
 弥助館無尽会一友会 82
 (株)柳川芳鉄工所 78
 (株)山市成工 48

山一窯業(株) 73
 (株)山形一級建築士事務所 62
 (有)山縣塗装店 81
 (株)山田設備 41
 山梨ガーデン(株) 69
 (株)山梨技術研究所 76
 山梨クラリオン(株) 75
 山梨県護国神社 71
 山梨建鉄(株) 48
 山梨県弁護士会甲府一高同窓会 9
 山梨県木材製品流通センター協同組合 66
 山梨自動車産業(株) 36
 (株)山梨新報社 53
 山梨信用金庫 30
 山梨スズキ販売(株) 33
 山梨中央青果(株) 17
 山梨通運(株) 63
 山梨トヨタ自動車(株) 50
 山梨日野自動車(株) 52
 (株)山梨フォークリフト 72
 山梨ユニフォーム(株) 77
 山の手鍼灸整骨院 72
 山本基礎工業(株) 16
 山本整形外科医院 80
 (株)UG都市建築 34
 (株)ユーティワイ企画 71
 湯澤工業(株) 80
 ユタカ電機(株) 73
 湯殿館 33
 (株)ユニセン 78
 (医)湯村温泉病院 64
 吉野聡建築設計室 62
 (株)依田組 75
 (株)依田工務店 84
 (株)ラッキーアンドカンパニー 19

リストランテバローロ 84
 (株)立地企画 35
 龍王産業(株) 48
 (医)竜王レディースクリニック 51
 林野内科医院 81
 レーザープロ 78
 (有)レストランニューポート 70
 レストランバーアルフィー 68
 レストランバーSAM 64
 (株)ロード 75
 わ(株)wacom 16
 <スズ>(株)山梨支店 72
 (株)ワイ・シー 37
 (株)ワイ・ジュエリー 78
 若尾会計事務所 83
 若尾歯科医院 70
 若駒 62
 NPO法人わたげの会 32
 (有)和田電気商会 84
 (株)渡辺工業所 60
 (株)渡辺新聞店 62
 綿半ソリューションズ(株) 27

難病の子どもたちのためのキャンプ場あおぞら共和国を支援しよう!

みんなのふるさと あおぞら共和国物語

甲府中学・甲府一高同窓生の皆様に、ご寄付のお願いをしてきました「みんなのふるさと夢プロジェクト」(難病の子どもたちのためのキャンプ場(あおぞら共和国＝北杜市白州町・レスパイト施設)の建設)も、おかげさまで順調に進行しています。多くのご支援を賜り、心より御礼申し上げます。引き続きご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。この度、「あおぞら共和国」の意義と素晴らしさを伝える小冊子を作成しました。ご興味のある方はぜひ、ご連絡をお願いします。

甲府一高あおぞら会 会員募集中

〒252-0233 神奈川県相模原市中央区鹿沼台 1-7-7 おぐちこどもクリニック内

甲府一高あおぞら会行 <https://ymkp.net/aozora/>

おぐちこどもクリニック院長 小口 弘毅 (45 年卒)

～真空システム・装置の設計製造～

本社・昭和工場

〒409-3853

山梨県中巨摩郡昭和町

築地新居1641-8

TEL055-275-5533

- ・ 成膜・エッチング装置

- ・ 真空を利用する実験装置

甲府工場

〒400-0834

山梨県甲府市落合町724

TEL055-243-8100

- ・ 設計から製造・据付・アフターサービスまで

- ・ □1200mm,φ1200mmまでの精密真空部品加工

- ・ 航空宇宙関連部品加工

 株式会社 中家製作所

URL : <http://www.nakayass.co.jp>

E-mail : sales@nakayass.co.jp

建築設計監理



カワチ 建築設計事務所

河西 聡 (昭和48年卒)

〒400-0856 甲府市伊勢 4 丁目40-5

TEL055-233-7850 FAX055-233-7857

 写真と自家焙煎珈琲豆 ● ● ● ● ● ● ● ●



写真と自家焙煎珈琲豆

店主 清水 力

〒409-3802

山梨県中央市西新居90-7

055-274-0777

090-8442-7221

E-mail : leica.r6.2-le8t@ezweb.ne.jp

シミズカメラ

スタジオ撮影・学校写真・発表会

舞台撮影・モノクロ撮影・現像教室 etc

豆助

自家焙煎珈琲豆各種販売

定休日・火曜 他 不定休

営業時間・13:00～18:00



総合防水・塗装・リフォーム 工事

有限会社 中 沢 実 業

代表取締役 中 沢 龍 雄

〒400-0836 山梨県甲府市小瀬町565-1

tel 055-241-5198 fax 055-241-5193

E-mail : rym@beige.ocn.ne.jp

おかげさまで創業 100 周年

信頼と実績の大型きもの専門店



京呉服

ふじや

武内 有 二 (昭和 53 年度卒)

武内 太 郎 (平成 19 年度卒)

甲府市中央 1-14-13 TEL.055(235)5025(代)

住まいの建材・住宅設備機器・パナソニック代理店
太陽光発電システム・システムキッチン・システムバス

(有) 野 中 製 材 所

野中 敏 光 (昭利 52 年卒)

〒400-0113 甲斐市富竹新田 2169-8 E-mail: nonaka-s@ceres.ocn.ne.jp
TEL 055-279-6826 FAX 055-279-0787

寿司・割烹

治 作 鮎

甲府市中央 4 丁目 8-19 ☎(055) 235-1238(代)

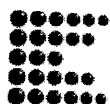


医療法人 アウゲン

田 辺 眼 科

医師 田辺 讓二 (昭和 41 年卒)

〒400-0117 山梨県甲斐市西八幡 693-1 (竜王中学校南 200m)
TEL: 055-278-0001 FAX: 055-278-0002 E-mail: kai-gan@ya2.so-net.ne.jp



株 式 会 社

コスモエナジー

優れたソフトウェアを開発する「e職人」のプロ集団

代表取締役 軽石 泰孝 (昭和50年卒)

〒171-0033 東京都豊島区高田2-18-23 シャトー目白2F

TEL: 03-3986-0048 FAX: 03-3986-5794

<http://www.cosmoenergy.co.jp/>

e-mail: karuishi@cosmoenergy.co.jp

新しいカタチのスポーツSUV

走りの楽しさをあらゆる人へ



あなたとクルマの未来を考える

ネットヨロ山梨



新型クラウンスポーツ
2.5L ハイブリッド車



ライフラインの110番!
器具修理からリフォームまで
なんでもご相談ください!

すまいのことなら

055-226-5526

Enefit

TOKYO GAS GROUP

エネフィット

どう しん

銅 信

甲府市相生1丁目7-10



いち柳ホテル
ホームページ

冠婚葬祭

光明石の湯
いち柳ホテル

山梨県南巨摩郡富士川町青柳町 293



キッチンカーインスタ
ご覧ください

トモエソース販売元

有限会社 シミズ酒販

代表取締役 清水 昌行 (昭和 58 年卒)

〒400-0822 山梨県甲府市里吉 4-4-16

酒販部 055-235-7725

食品部 055-232-1666

FAX 055-227-0380

URL <http://www.simizu3.com>

E-mail: simizu3@alto.ocn.ne.jp

株式会社 羽中田自動車工業

アップル車検美術館通り店

甲府市貢川 1-1-6

TEL055-228-4832

アップル車検田富店

中央市流通団地 3-2-2

TEL055-273-5750

ボディショップもどーる!

甲府市貢川 1-6-23

TEL055-221-2288

K- ばっか!

甲府市徳行 1-16-3

TEL055-228-4833



水と空気の総合エンジニア

株式会社 渡辺工業所

(株)渡辺工業所一級建築士事務所

渡辺 信 (平成18年卒)

山梨県甲府市国母五丁目9-24 TEL:055-224-6353 FAX:055-224-6357 URL:<https://www.watanabe-kougyouso.com>

PIECE 陣場通り

有限会社トゥーシェ 代表取締役 天野新一郎 (昭和 59 年卒)

甲府市富士見 1-18-1 055-244-7797

あおぞら共和国(北杜市)を支援しよう!

甲府一高あおぞら会

実行委員会

会長 露木和雄 (S45年卒)

<https://ymkp.net/aozora/>

E-mail: aozora@ymkp.net

合同会社イズマタ

2025年オープン予定 **Domaine Kyoko Hosaka**

代表社員 保坂 香子 (当番幹事)

〒407-0024 山梨県韮崎市本町 1-8-1

歴史と文化を感じる街並を、

ぶらり歩いてみませんか。



「時の鐘」が目印

明治初期まで、200年以上住民に
時刻を知らせていた「時の鐘」を再現。

甲府駅
北口
徒歩3分

甲州夢小路
駐車場1時間
無料

甲州夢小路

歴史と文化を感じる歩いて楽しめるまち

山梨のおいしさ、楽しさ、美しさと出逢う。

甲州夢小路

検索



〒400-0031 山梨県甲府市丸の内1丁目1-25 TEL.055-298-6300 FAX.055-298-6301 (玉屋 甲州夢小路)

FOLLOW US
koshuyumekouji